トハ若干ノ条件ヲ要スベク其ノ条件ニ付テハ未ダ両国間ニ一致ナカルベク一方「ベルトロー」ガ本使ニ語レル利益ノ半分ヲ賠償ニ提供スル条件ヲ以テ独逸ノ参加ヲ許ス案ノ如キハ英国ノ容レザル所ナルベク旁々本問題ハ「ロイド、ジョージ」ノ発案ニテ「ブリアン」ハ正面之ニ反対セザルモ内容ニ付何等妥協ナク至極未熟ノモノト想像セラル本案ガ最高会議ニ於テ目鼻ガ附ケバ来ル二月下旬列国財経会議ヲ開キ日米ニモ参加ヲ求ムル旨新聞ニ報道セラルル処元来欧州ノ経済回復ニ付英仏ハ幾度カ手段ヲ変ヘ米国ノ援助ヲ求メタルモ常ニ拒絶セラレ遂ニ已ムナク本件ノ案出ヲ見タルコトナレバ米国ガ参加ヲ諾スルヤ否ヤ頗ル疑問ナリ日本ガ之ニ参加スルノ利害ハ理財ニ暗キ本使ノ惑フ所ナルガ参加ノ為メニ重荷ヲ負ハサルルハ迷惑ナルト同時ニ不参加ノ為メ露国富源ノ配当ニ与リ得ザル様ナラバ西比利亜ヲ控フル本邦トシテ考慮ヲ要ス日米共ニ不参加ノ場合ニハ参加国ヲ余リ不利益ノ地位ニ置クヲ敢テセザルベキモ米国ガ参加シ日本ガ不参加ノ場合ニハ日本ハ不利益ノ地位ニ陥ルノ虞アリ（露国鉄道全部整理ノ件ガ案中ニ含マルル場合ハ日本ハ勿論参加ヲ要スベシ）本使ハ此ノ機微ノ事情ノ為メ政府ノ御意向ヲ知ル迄ハ当国当局ニ就キ深ク意見ヲ交換シ能ハズ成ルベク之ヲ避ケ居ルニ付右御承知ノ上何分御訓示アリタシ英独ヘ転電セリ

五九七　十二月三十一日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

カンヌ最高会議ニ対スル日本政府ノ方針回訓ノ件

第一〇四八号

貴電第一七六四号ニ関シ

(一)賠償問題ニ関シテハ

(イ)独逸ガ支払計画書ニ基キ一月十五日ニ支払フベキ五億金貨馬克及二月十五日ニ支払フベキ八、九、十三箇月間ノ輸出総額ノ二割六分ノ支払ニ関シテハ帝国政府トシテハ独逸ノ支払能力ノ存スル限リニ於テ支払ハシメテ可ナリト認ムルモ尚絶対ニ不能ナル事情アラバ延期ヲ承認シテ差支ナシ但シ適当ノ保障アラバ成ルベク之ヲ取付ケ置クコト然ルヘシ

(ロ)賠償方法トシテ列国ガ現物労力等ヲ受領スル方針ヲ執ラムトスルトキハ各国ニ於テ帝国政府ガ将来独逸ト之ニ関スル特別ノ協定ヲ締結スルノ権利ヲ明ニ承認シ且独逸ヲシテ之ヲ認メシムルノ手続ヲ取ルコトヲ条件トシテ之ニ賛同セラレ差支ナシ帝国政府ニ於テハ目下如何ナル現物又ハ労力ヲ提供セシムルヲ有利トスルヤノ問題ニ付テ慎重審議中ナリ

(ハ)独逸ノ支払フベキ賠償債務総額千三百二十億金貨馬克ノ減額ノ問題起リタル場合ニ於テハ其ノ減額方法ガ関係国ニ対シ公平ニ処理セラルル限リ且列国ガ之ヲ承認スル以上帝国政府ノミ敢テ反対スルノ要ナキモノト認ム

(ニ)前記ノ賠償総額減少又ハ現物受領等ノ決定ヲ見ル場合ハ勿論然ラザル場合ニ於テモ従来ノ方針通リ現金吐出ヲ避クルコトニハ充分努力セラレ度シ

(ホ)帝国政府ノ大体方針トシテハ賠償問題ニ関シ独逸ガ誠意ヲ以テ履行スル以上独逸ニ対シ余リニ過重ナル条件ヲ強ヒ従テ其ノ財政上ノ危機ヲ招クガ如キ措置ハ之ヲ避ケタク殊ニ此ノ際若シ仏国ヨリ「ルール」占領等ノ如キ強制手段ヲ申出ヅルコトアルモ俄ニ賛同スルヲ得ザル次第ナリ

(二)財政復興問題ニ関シテハ

帝国政府ハ各国互ニ協力シテ其ノ財政状態並国際経済関係ヲ常態ニ復帰セシメムトスル趣旨ニハ全然同感ナルモ帝国政府トシテ此ノ際具体的ニ如何ナル計画ニ加担スベキヤ将又如何ナル援助ヲ為シ得ベキヤヲ予定シ難キニ付此等ノ点ハ箇々ノ場合ニ就キ御請訓ヲ俟チ決定スルコトト致シタシ以上諸項ハ一月四日ノ正式閣議ヲ経タル上何分ノ儀申進ムル迄ハ貴官限リノ御含ト御心得置相成タシ

附　山東鉄道及鉱山並ヤップ島海底電線賠償問題

五九八　一月十七日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

第一二三条及第二六七条適用ヲ受クベキ中国及南洋ノ分ニ関スル独国ノ補正内容報告ノ件

第六一号　（一月十九日接受）

賠実第八八号

(一)第一二三条及第二六七条ノ適用ヲ受クヘキ独逸ノ権利、利益ニ付テハ曩ニ独逸カ其ノ表ヲ提出シタル際支那及南洋ノ分ニ付往電第一四九号賠実第六四号ヲ以テ電報、其後賠償委員会ノ要求ニ基キ独逸ハ右表ヲ補正シ特ニ第二百六十条適用ノ分ニ付テ価格ヲ附シタリ、御参考迄ニ郵送ス

㈡右訂正シタル表ニハ(b)支那ノ項目ニ付テハ(1)上海南京鉄道ノミヲ存シ右説明ニ旧配当保障(Dividend warrants)ノ数、五十八トアリ、(2)(3)(4)ハ之ヲ削除ス、其理由ハ印度支那、雲南鉄道ハ巴里ニ本店ヲ有スル仏国会社ノ優先的ニ第二百九十七条ノ適用アルカ故ニ又「ヤップ」上海「メナド」海底電線ハ日本委員ノ抗議アルニ依ル、(e)南洋ノ分ニ付テハ変更ナク「アンガウル」燐鉱会社ヲ掲ケアルモ右ハ第二百九十七条ヲ優先適用スル旨法律部ニ於テ決定シタリ依テ表ヨリ削除方要求シ置ケリ、㈢賠償委員会ハ大要左ノ趣旨ノ書簡ヲ独逸ニ送ル旨ノ決議ヲナシタリ

(イ)独逸政府ガ第二百六十条第二項ニ付完全ナル表ノ提出ヲ遅延セルガ為メニ賠償委員会ハ其ノ譲渡ヲ受ク可キ権利利益ヲ特定スルコト能ハス

(ロ)依テ賠償委員会ハ独逸政府ガ「クリーグスラステン、コンミッション」提出ノ表中ニ掲ゲラレタル公共事業中ニ於ケル独逸国民ノ権利利益ヲ取得スヘキ旨概括的ニ要求シ相当期間内ニ於テ之等権利利益ヲ具体的ニ指示スルコト

㈣一方財政部ヨリ各国委員ニ対シ第二百六十条ノ適用ヲ受クヘキ権利利益ノ独逸提出表中ニ記載ナキモノニ付至急通知アリタキ旨再ヒ問合セアリ本邦トシテハ第二百六十条ニ依リ要求スベキモノナキヲ以テ回答ノ要ナシト信スルモ為念今一応御意見承知致シタシ

㈤尚賠実第三十九号ヲ以テ報告セル第二百六十条適用ニ関スル法律部ノ解釈ニ付テハ別段異議ナキ旨回答シ来リタリ英、独ヘ転電セリ

五九九　一月二十日　在英国林大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道鉱山ノ評価ニ関スル賠償委員会法律部ノ決議報告ノ件

第七六号　（一月二十一日接受）

賠実第八九号

（本電及ビ賠実第九〇号ハ在仏大使ト協議ノ上電報ス引用セル電報ハ在仏大使館番号ニ依ル）

第一　山東鉄道鉱山ノ評価ニ関シテ賠償委員会法律部ニ対シ「ジュネーヴ」発賠実第八二号(註)第一ノ趣旨ヲ以テ覚書ヲ提出シ尚「ジュネーヴ」国際聯盟財政経済委員会終了後直ニ関場ヲシテ法律部ト協議セシメタル処同部ハ結局左ノ決議ヲ為シタリ

一、一九一九年六月二十八日ノ議定書ニ依リ独逸貸方ニ記入セラルベキ金額ヲ日本ノ借方ニ記入スルコト

二、支那ガ条約ニ調印セザルノ事実ハ賠償委員会ノ関係スル限リ本件ニ何等ノ影響ヲ及ボサザルコト

三、山東鉄道鉱山会社ノ株式ニシテ中立国又ハ同盟及ビ聯合国ノ国民ニ属スルモノアル場合ニ於テハ甚ダ困難ナル問題ヲ惹起スベク法律部ハ具体的問題ノ発生スルマデ之ガ回答ヲ避クルヲ得策トスルコト

第二　右決議ノ一ニ付テハ詳細ノ理由ヲ附セリ大体ハ本邦提出ノ覚書ノ趣旨ニ反セザリシモ

(イ)会社財産ノ私有ヲ前提トシ過ギタルノ恨アリシヲ以テ議定書ノ字句ト同様ニ独逸国民ノ有スルコトアルベキ意味ヲ明ニセシメタリ

(ロ)独逸ノ実際国民ニ補償シタル金額ヲ貸借勘定ニ附スルノ文字アリシモ独逸ガ不当ノ補償ヲ為ス場合アルヲ慮リ日本ノ承認スル金額ナル文字ヲ挿入スルコトヲ提議シタルモ法律部ニテ議論アリ遂ニ独逸ガ実際且善意ニ（and in good faith）補償シタル金額ト修正シタリ

第三　右決議ハ未ダ財政部之ヲ承認スルニ至ラズ従ッテ又賠償委員会ニ附議セラルルヤ否ヤ不明ナリ

第四　関場ガ法律部並ニ財政部ト折衝シタル際議論ガ偶々公私有認定又ハ評価権ニ亘ル場合常ニ賠償委員会ノ権限ニ属スル説ヲ承認セザル態度ヲ以テ進ミシニ一般ノ意向ハ前者ニ付テハ問題ナリトスルモノナキニアラザレドモ後者ニ付テハ評価ノ方法ハ議定書二ノ定ムル所ニ依リ制限セラルベシ（則チ第二四三条一（項）ニ依ルベキ筈ノ処議定書二ノ規定アルタメ賠償委員会ノ評価権ハ独逸ガ其ノ国民ニ補償シタル金額ヲ貸記スル範囲ニ限ラルルニ至レリ）ト雖モ評価権限ハ依然賠償委員会ニアリトスル説ニ一致セリ右財政部ノ質問ガ権限問題ヲ主眼トセザルヲ以テ法律部モ表面何等之ニ触ルルコトナク以上ノ如ク決議セル次第ナリ

第五　其ノ後財政部ハ独逸ニ対シ山東鉄道、鉱山ニ関スル補償価格ノ通知ヲ求メタルモ独逸政府ハ右会社株式ハ投機甚シキ為メ価格一定セズ従ッテ其ノ国民ニ対スル補償価格ヲ決定スルコト困難ナルヲ述ベ本件ニ関シ日本委員ト商議センコトヲ希望シタリ仍ッテ財政部ハ関場ニ対シ財政部ニ於テ独逸委員ト会合センコトヲ求メタルガ貴電御垂示ノ次第モアリ独逸ヨリ反証ヲ提出セズ尚ホ又権限問題未決ノ今

日公然賠償委員会ノ財政部ノ名ニ於テ独逸委員ト会合スルコトハ如何カト存ジ賠償委員会ニ対シテハ本邦委員ハ政府ヨリ訓令ヲ得ザル今日公然本件ヲ商議スル地位ニアラズ依ッテ独逸委員ノ希望ニ依リ非公式ニ日本委員事務所ニ於テ会見スルハ差支ナキ旨答ヘシメタリ右御含置ヲ請フ

在独大使ヘ郵送セリ

註　賠実第八二号ニ関シテハ日本外交文書大正九年第三冊下巻七五一文書（九七五頁）参看

六〇〇　一月二十一日　在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道関係書類問題ニ関シ中間報告ノ件

附記　大正九年十二月六日附内田外務大臣ヨリ小幡公使宛公信亜一機密送第一六三号

山東鉄道関係書類ニ関シ指示ノ件

第五九号　（一月二十二日接受）

客年十二月六日附亜一機密送第一六三号貴信ノ件直接支那側ヘ申出ヅルコトハ御申越ノ通頗ル機微ニ亘リ徒ラニ彼等ヲ躊躇セシムルニ終ルヤモ難計ニ付（特種財産事務局長ハ之ヨリ先キ疾ニ更迭シ居リ曽彝進ハ其ノ職ニアラズ）幸ヒ同局長李欽ト密接ノ関係ニアル「ベルトラム」ヲシテ李ニ尋ネシムルコト可然ト思考シ当時「ベ」ニ其ノ旨内話シタルニ「ベ」ハ自分ノ考ニテハ上海及天津独逸人ノ手ニアリタル書類ガ支那側ニ押収セラレ其ノ所管ニ属シ居レリトハ信ジ難ク多分在天津前独逸領事館ニ在リト思ハルルニ付機ヲ見テ在北京独逸政府代表者 Von Borch ヲ経テ内々取調ベ見ルコトトスベシトノコトナリシガ「ベ」最近来館報告スル所ニ依レバ天津前独逸領事館ニハ之ナシトノコトニテ尚他ノ心当リヲ探査中ニ付今暫ク猶予アリタシトノコトナリ回報余リ遅ルルニ付今日迄ノ経過電報ス（奉天中継一月二十一日後一〇、〇〇）

（附記）

大正九年十二月六日附内田外務大臣ヨリ在中国小幡公使宛公信亜一機密送第一六三号

山東鉄道関係書類ニ関シ指示ノ件

亜一機密送第一六三号

対独平和条約第百五十八条ニ関連シ膠州湾租借地ノ施政ニ関スル各種文書交付方曩ニ在独代理大使ヲシテ独逸外務省ニ申入レシメタル際山東鉄道及附属鉱山ニ関シテハ㈠山東鉄道会社土地家屋ニ関スル図書㈡山東鉄道会社ノ土地建物其ノ他営造物ニ対スル投資価格調書㈢千九百十四年八月現在山東鉄道会社対外貸借関係ヲ明ニスベキ書類㈣千九百十四年八月現在山東鉄道会社株主名簿㈤山東鉱山ニ関スル会計諸帳簿㈥山東鉱山ニ関スル収支諸証書類一切不備ノ為占領当時ノ事態ヲ明カニスル上ニ不便不尠ザル処此等書類ハ当初ヨリ之ナカリシモノナルヤ否ヤ又若シ右ノ関係書類之ナキニ於テハ詳細説明ヲ得度旨申入レシメ置候処今般在独代理大使ヨリノ電報ニ依レハ独逸外務省ヨリ右申入ニ対シ山東鉄道関係ノ諸書類ハ政府ノ所持ニ属セズシテ私的事業タル山東鉄道会社ノ所持スル所ナリ而シテ其ノ株式ハ無記名式ナルヲ以テ千九百十四年八月ノ株主名簿ナルモノハ存在セザルモ千九百十四年六月五日総会議記録ニ依レバ三千二百三十八万五千馬克ノ資本ハ氏名ヲ表示シタル株式ニ依リ代表セラレ居レリ尚山東鉄道会社ガ特ニ本件書類ニ関シ説明シタル所左ノ通

山東鉄道会社ガ山東ニ於テ所有スル土地建物並千九百十四年八月現在債権債務ノ関係ヲ明カニスベキ帳簿書類等ノ原本ハ大部分山東鉄道鉱山局及山東内地ニ在ル鉱山事務所内ニ保管セラレ居リタルヲ以テ其ノ占領ノ際他ノ財産ト共ニ日本軍ノ為差押ヘラレ又鉱山局ノ書類ノ一部ハ千九百十四年九月二十五日濰県停車場攻撃ノ際差押ヘラレタリ之ニ反シ淄川鉱山ノ書類帳簿等ノ主ナルモノ及千九百十四年六月以降ノ山東鉄道関係書類ハ上海及天津在住独逸人ノ手ニ保管セラレ千九百十九年二月及三月中右独逸人ガ支那引揚ゲノ際支那官憲ノ為メ押収セラレタルヲ以テ当分今尚当該支那官憲ノ所管ニ属スヘシ

トノ旨回答アリタル趣ニ有之候右説明前段日本軍ニテ差押ヘタル分ハ陸軍側ヲシテ取調ベシムル所存ナルガ後段所述ノ次第果シテ事実トセバ今日ノ場合表面支那側ニ之カ引渡ヲ求ムルコトハ頗ル機微ノ問題ト被存候得共元来前記関係書類ハ当時ノ事態査明上必要ナルノミナラズ万一他日山東鉄道ニシテ私有タルコト確証セラレ従テ補償ノ問題ヲ生スル場合ニ於テハ評価上特ニ必要ヲ感ズル次第ニ有之候条其辺御含ノ上内々曽特種財産管理局長辺ニ手ヲ廻ハシ之ガ入手ノ途無之哉或ハ不得已ンハ一時之ヲ借用シ写ヲ撮ルコトトスルモ差支ナシト存候処他ニ妙案モ無之バ適当ノ機会ニ於テ貴館館員ヲシテ右ノ趣旨ニテ曽ト懇談ヲ試ミシムル等

可然御配慮相成度此段申進候也

六〇一　一月二十一日　在英国林大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東問題ガ賠償委員会ノ議ニ上リタル際ノ我委員参加ニ関スル件

第七七号　（一月二十二日接受）

賠実第九〇号

第一、貴電「ジュネーヴ」全権宛第七六号[註]御回示第一ニ関シ山東問題ガ賠償委員会ノ議ニ上リタル場合ニ我委員モ之ニ参加スベキ件ハ「ジュネーヴ」発賠実第八二号第六末段ニ述ベタルガ如ク一昨年最高会議ニ於ケル帝国全権ト他全権トノ応答ニ関スル議事録、平和会議書記長ヨリ仏国大蔵省宛書翰、長岡参事官ヨリ賠償委員会準備委員会議長宛書翰等ノ文書アルヲ以テ一応主張ノ根拠トナシ得ベキニ依リ同電第一ニ述ベタルガ如ク主張シ今後モ其ノ貫徹ニ努力スベシト雖モ其ノ貫徹ヲ期シ得ルヤ否ヤ今後ノ形勢ニ徴セザルベカラズ従ッテ場合ニ依リテハ外交手段ニ訴ヘ賠償委員会外ニ於テモ各国政府ト交渉シ其ノ国賠償委員ヲ動カス様諒解ヲ遂グルノ要アルカトモ思ハル

第二、貴電第三号ニ関シ当方ニ於テ取リ調ベタルニ拠ルベキ文書ヲ発見スルコト能ハス或ハ前項出席権ニ関スル文書ト混同セラレ居ルヤノ疑アル処当時ノ関係者ハ多ク帰朝セラレ居レバ或ハ貴方ニ保管セラルル文書中ニ存スルヤモ知レザルニ付今一応御取調ノ上若シ有ラバ至急御送付相成度ク而シテ万一拠ル可キ文書モナク又之レ有リトスルモ単純ナル諒解ヲ根拠トシ現在ノ賠償委員会ニ対シ認定権更ニ進ンデ評価権ヲ主張スルコトハ前電法律部ノ議論トシテ主張スルモ甚ダ困難ナルベシ強テ此ノ主張ヲ以テ進マントセバ之ト同時ニ外交手段ニ訴ヘ各国政府ト諒解ヲ遂ゲ外部ヨリ賠償委員会ヲ動カスノ必要アリト信ズ本件ニ関シ斯カル手段ニ出ヅベキヤ否ヤハ帝国政府ノ慎重ニ考慮セラルベキ所ナルベシ（往電第九一〇号賠実第七〇号参照）

第三、貴電第二号ノ如ク認定権及評価権ノ問題ヲ離レ我方ニ於テ速カニ調査ヲ始メ独逸ト交渉ヲ開始スルヲ最得策トスルハ屢々当方ヨリモ申進メタル次第ナリ賠実第八九号第五ノ通賠償委員会財政部ハ表面権限ノ問題ニ触レズ実際上又事務上ノ見地ヨリ本件ヲ解決セントスル意向ナレバ此ノ際其ノ要求ニ応ズルト共ニ Kriegslasten Kommission ノ希望ヲモ容レ非公式ノ折衝ヲ以テ大体独逸側ノ意向ヲ確メ置キ彼我交渉ノ望アルニ於テハ公式ニ価格ノ協定ヲ遂グルコト最有利ナリト思考セラルルニ付御同意ナルニ於テハ至急御回訓ヲ仰グ

在独大使ヘ郵送セリ

註　日本外交文書大正九年第三冊下巻七六〇文書（九八三頁）

六〇二　一月三十一日　内田外務大臣ヨリ在英国林大使宛（電報）

賠償委員会ニ於ケル山東鉄道問題ニ付措置振訓令ノ件

第五一号

貴電第七六号（賠実第八九号）及貴電第七七号（賠実第九〇号）ニ関シ

㈠法律部ノ決議ニ関シテハ今後ノ進展如何ニ依リ更ニ何等申進スルコトアルベキモ此際特ニ御注意ヲ乞ヒ度ハ当方ノ最重キヲ置カントスル点ハ審査権評価権ノ所属問題ノ閑却スベカラザルハ勿論ナルモ当面ノ問題トシテハ寧ロ賠償委員会ニ於ケル我委員ノ参加問題ガ重大ニシテ山東鉄道問題ニ関スル限リ日本委員ヲ加ヘザル賠償委員会ニ於テ何等審議決定ノ権ナキコトヲ主張スルニ在リ此ノ主張ハ賠実第九〇号第一ニ所載セル文書ニテモ明白ナリ本件強硬ニ主張シ容レラレザル場合ニハ大使会議又ハ首相会議ヘ持出ス覚悟ヲ要ス就テハ其ノ辺篤ト御含ノ上此ノ点ハ極力我主張貫徹ニ努メラレ度シ

㈡山東鉄道問題ニ関シ独逸側ノ申出ヲ機トシ此際御来示ノ通リ非公式ニ独逸側ト談合ヲ試ミルニ何等異存無ク寧ロ賠償委員会トノ関係ヲ離レ直接独逸トノ間ニ本問題ニ関シ我方ニ有利ナル了解ヲ遂グルノ端緒ヲ開クヲ得バ好都合ナリ

㈢独逸カ私有ノ立証ヲ為シ得タルモノト仮定シ此ノ場合ニ於テ独逸政府ノ独逸国民ニ対スル補償問題ニ就テハ我方ニ於テハ山東鉄道会社ナル一法人ヲ独逸国民ト看做シ之ニ対シテノミ賠償スルコトトシ株主ニ対スル補償ハ会社自ラ解散清算ノ上之ヲ実行セシムルコトトシタキ所存ナリ

然ルニ御来示ノ法律部ノ決議第三並財政部ヨリ補償価格ノ通知ヲ求メタルニ対スル独逸側ヨリノ回答ノ趣旨ハ孰レモ株主ヲ以テ補償ノ対象ト為サムトスルモノナルヤニ

解セラルル処元来本件ノ如キ財産権上ノ問題ニ関シ「国民」ナル語ヲ広義ニ解シ法人ヲモ包含スト主張シ得ザルニ非ザルベク果シテ然ラバ山東鉄道会社ナル一法人ヲ本件補償ノ対象ト為シ得ベキコト当然ナリ何トナレバ若シ日本ガ山東鉄道会社ナル法人ノ権利義務ヲ継承シタルモノナラバ議定書第二ノ所謂利益ヲ有スル者トシテ株主ヲ補償ノ対象トスルコト或ハ理由ナキニアラザルベキモ日本カ譲渡ヲ受ケタルハ山東鉄道及鉱山其ノモノニシテ其ノ所有者ハ山東鉄道会社ニシテ株主ニアラザルガ故ニ直接ノ利益ヲ有スル山東鉄道会社ヲ措イテ間接ニ利益ヲ有スル株主ヲ補償ノ対象トスルコトハ不当ナリト謂ハザルベカラザルノミナラズ仮リニ国民ナル語ヲ自然人ニ限ル意味ニ解シ株主ヲ以テ補償ノ対象トスルモ**亦**ハ山東鉄道及鉱山ニ対シ利益ヲ有スル者トシテ補償ヲ与フルモノナルヲ以テ補償額ハ山東鉄道及鉱山ノ価格ヲ超ユルコトヲ得ザルベク株式市価ノ高低ノ如キハ何等補償額ニ影響ヲ及ボスモノニアラズトノ論拠ニ依リ前記山東鉄道会社ヲ補償ノ対象トスベシト主張シ度所存ナリ

(四)山東鉄道及鉱山カ全部私有財産タルコト証明セラレタル場合ニ於ケル評価額ニ対スル我方方針ハ客年在仏大使宛往電第五三三号ヲ以テ申進シタル通リ大体約三千万円位トシ且聯合国人並中立国人ノ手ニ移レル同鉄道会社株券ニ基ク請求権等ノ如キヲモ右ニ包含セシメ度趣旨ナリ

(五)貴電御来示ニ拠レハ財政部ハ独逸ニ対シ山東鉄道鉱山ニ関スル補償価格ノ通知ヲ求メタル趣ノ処迭次申進シタル通リ我方トノ間ニ何等ノ了解無クシテ山東鉄道ガ私有タル場合ヲ仮想セムトスルカ如キ措置ニ出ヅルコトハ我方トシテ之ヲ黙過シ難キ次第ニ付此点篤ト財政部ノ注意ヲ喚起シ置カレタシ

(六)貴電第七七号（賠実第九〇号）ノ第二ニ指摘セラレタル文書ハ貴電第一ニ列記セラレタル各文書ニ外ナラズ右ハ本問題ニ関スル経緯ヲ明カニスル有力ナル記録ナリ

六〇三　二月三日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

賠償委員会ニ於ケル山東鉄道問題ニ関シ意見裏申及請訓ノ件

第一四九号　（二月五日接受）

賠実第九八号

第一、往電賠実第九〇号第二ノ如ク独逸側ハ私有ノ証拠書類及ビ若シ私有ナリトセバ其評価ニ関スル材料ヲ提出スル筈ナリ依テ日本委員ニ於テモ非公式会合ニ於テ応答ノ心得ノ為メ左記ノ諸点ニ付御意見承知致置タシ

第二、公有論ノ根拠トシテ講和準備調査附属書参考資料及ビ関係委員会議事録ニ記載シアル処ハ既ニ講和会議当時ニ於テ主張シ尽シタル処ナリ又其論拠ハ鉄道鉱山ニ於ケル権利ヲ獲得スルニ至ル迄ノ理由トシテハ有益ナリシモノナリ然ルニ既ニ条約ヲ以テ権利ヲ獲得シタルニモ不拘其結果損害ヲ蒙ルコトアルベキ独逸国民ノ利益ノ如キ公正ナル帝国ノ襟度ヲ表明シタル今日ニ於テハ条約締結前ニ於テ用イタル政治論ニ非ズシテ寧ロ議定書ニ挙ゲタル「独逸国民ノ利益」ノ意義及ビ其有無ニ関スル事実問題ナラズヤ蓋シ議定書第二項ヲ条約第一五六条ト対照シテ精査スルニ第一五六条ニ依リ独逸ヲシテ放棄セシメタルモノハ政府ノ権利タルト私人ノ権利タルトニ論無ク「独逸ノ権利」ナリ之ニ反シ議定書ニ基キ考慮セントスルハ「独逸国民ノ利益」ナリトノ意味ニ解セラルルガ如シ

第三、若シ此意味ノ正文トナルモノトセバ利益トハ如何ナル範囲ヲ包含セシメタルモノニヤ若シ広義ニ解セバ鉄道鉱山ニ付利害関係ヲ有スル一切ノモノヲ含ムガ如キモ第一五六条ト対照シ其第二項ニ依リ独逸政府ノ為シタル権利放棄ノ結果其権利ノ主格又ハ其他ノ権利者ニシテ直接損害ヲ蒙レルモノニ限ルト観テ可ナリ茲ニ斯ノ如キモノヲ予想スルニ

a、山東鉄道会社

b、株主

c、若シアリトセバ鉄道鉱山ニ対スル担保権者

d、会社ニ対スル債権者ナル処独逸政府ガaニ補償スレバb、cニ対シ補償スルノ必要ナキモaニ補償セズトセバb、cニ補償セザルベカラズ

惟フニ第一五六条ニ依リ放棄シタルモノハ山東鉄道会社ノ権利ナリト認ムベキモ議定書ノ適用ニ於テハ或ハ山東鉄道会社ハ独逸政府ト同一物ナリト認メ会社ガ蒙レル損害ハ顧慮スルノ必要ナク単ニ株主其他権利者ノ地位ハ之ヲ顧慮スベシトノ意味ナリシト云ヒ得ラレザルニ非ズ若シ此主張ヲ貫徹シ得ルトセバ賠償勘定ニ本邦ヨリ払込ム可キ金額ハ議定書ノ文書ニ依リ単ニ独逸株主ニ対スル独

逸政府ノ補償額ニ止マリ聯合国及ビ中立国株主ニ対スル独逸政府ノ補償額ハ与リ知ラズト云フノ地位ニ立チ得可シ然レトモ斯ノ如ク主張セント欲セバ独逸ヨリ山東鉄道会社ガ私設会社ナルコトヲ証明シ来ルニ際シ聯合国側ニ於テハ同会社ガ独逸政府ノ変形ニ過ギザリシコトヲ立証シ独逸ノ主張ヲ反駁シ得ルニ足ル精確ナル材料ヲ準備シ居ルヲ要ス此点ニ於テハ単ニ第二ニ挙ゲタル政治論ノ如キハ適切ノ用ヲ為サズト思考スルニ付貴方ニ於テハbノ以外ニ適切ナル材料ノ準備アリヤ何レニセヨ議定書ノ目的ニ於テハa、b何レヲ取ルベキヤ至急御決定且ツ理由根拠御回示相成度シ

第四、又株主其他ノ権利者ヲ対象トスルニ相当ノ理由アリトスルモ利益ノ評価ニ於テハ会社ヲ対象トスル場合ノ如ク容易ナラズ種々争論ノ道ヲ開クベキハ勿論聯合国及中立国株主ニ於テ不満苦情ノ種ヲ播ク虞アリ特ニ山東問題ノ如ク外交上微妙ナル地位ニ立テル場合ニ於テハ更ニ事件紛糾ノ原因ヲ増スコトトナルベシ故ニ若シ一方ニ於テ山東鉄道会社ガ独逸政府ノ変形ナリシコトヲ立証スルニ足ルベキ充分ノ材料ナク又他方ニ於テ三千万円ノ範囲内ニ於テ独逸政府トノ交渉纏リ得ル見込アル場合ニ於テハ最早公有私有ノ審査論ヲ排シ寧ロ雅量坦懐ニ山東鉄道会社対象ノ方針ヲ以テ直チニ其利益評価ニ着手スルコト得策ナラズヤ

第五、右評価ニ付テハ議定書ノ規定ニ依レバ独逸ガ補償シタル金額ハ独逸ノ貸方ニ記載スルモノトス尤モ其前交渉ヲ以テ其金額ヲ確定スルノ要アルコトハ独逸モ予期シ居ルガ如シ唯該金額確定ノ上独逸ガ予算等公ノ形式ニ依リ補償ヲナス旨ヲ発表シタルトキハ此金額ヲ以テ我借方ニ記載スルモノタルベシ然ルニ目下ノ事情独逸ハ急ニ補償ノ予算ヲ編制シ得ベシトモ見エズ然レドモ第四ノ如ク我態度ヲ決シタリトセバ評価交渉若クハ独逸補償遅延スト雖モ賠償勘定貸借対（脱）予算作成ノ時期切迫セル場合ニ於テハ三千万円ノ範囲内ニ於テ「スパー」評定ニ依リ仮見積リヲナシ我勘定ニ借記セシメ置クヲ可トセズヤ勿論議定書ノ規定履行ヲ条件トスル旨ノ留保ハ必要ナリ御意見承知致シタシ

第六、(a)評価ノ材料ニ関シ御回示ノ三千万円ヲ限度トスルノ計算基礎ハ参考調書中ノ現存財産評価法ニ依ル計数ナリト承知致シテ差支ナキヤ

(b)該計数ハ総テ変更之ナキヤ

(c)計算基礎ニ付参考トナルベキ計数詳細御報道アリタシ

在英独大使ヘ転電セリ

六〇四　二月十四日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

賠償委員会ニ於ケル山東鉄道問題ニ関スル訓令補足ノ件

第一五〇号

貴電第一四九号（賠実第九八号）ニ関シ本件ニ関スル当方ノ意嚮ハ貴電ト行違ニ在英大使ニ発送セル回訓（同大使宛往電第五一号）ニテ大体御承知ノ儀ト思料スルモ尚ホ補足旁々左ニ申進ス

(一)貴電第二ノ点ハ貴見ノ通即チ独逸側トノ非公式会合ニ於テ査明セントスルハ寧ロ議定書ニ所謂独逸国民ノ利益ノ意義及其ノ有無ニアリ

(二)貴電第三第四ノ補償ノ対象ニ関スル当方ノ意嚮ハ前記在英大使宛往電第五一号ノ通ニシテ右ハ一ハ御来示ノ株主ヲ対象トセントスル場合ノ諸種ノ困難ヲ避ケントノ趣意ニ出デタルモノニシテ大体貴見トモ合致スル次第ナルガ唯貴電第四末段ニ「最早公有私有ノ審査論ヲ排シ」云々トアルモ議定書ニ所謂独逸国民ノ利益ノ有無ヲ審査スルコトハ筋道ヲ明カニスル為必要ナルハ勿論ナリ

(三)貴電第五ノ点ハ貴見ノ通リ取計ハレ異存ナシ

(四)貴電第六(a)ハ貴見ノ通リ(b)ハ変更ナシ尤モ本件評価格ニ就テハ目下守備軍鉄道部ニ於テ再調査中ノ趣ニ付(c)ノ件ト共ニ追テ申進スルコトアルヘシ

在英独大使ヘ転電アリタシ

六〇五　二月二十六日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

南洋無線電信会社ノ無線電信事業ヲ行フ権利ニ関スル賠償委員会英国評議員ノ意見報告ノ件

第二九〇号　（二月二十八日接受）

賠実第一〇三号

一、貴電第七九号（二）ニ関シ南洋無線電信会社ノ「ヤップ」島ニ於ケル無線電信事業ヲ行フ権利ガ消滅セリヤ否ヤニ付賠償委員会側ノ見解ヲ質シタル処財政部英国評議員ノ

回答左ノ通

二、本件ニ関スル賠償委員会ノ確定的決定ヲ得ル為メニハ各特許事業ノ性質及特許ノ基本法律ニ付キ詳細ナル研究ヲ要スルモ一般的問題トシテ既ニ法律部ハ国際法ノ原則トシテ領土ハ其負担即チ特許事業者ノ権利ヲ負ヒタル儘譲渡サルルモノニシテ「ヴェルサイユ」条約ニ於テハ譲受国ハ特許ヲ継続スルカ又ハ第二九七条ニ依リ之ヲ清算セザルベカラズト決定シタリ

此意見ハ公式ニハ賠償委員会ニ提出セラレザルモ財政部モ之ト同意見ニシテ賠償委員会ガ同一見解ヲ有スル事殆ンド疑無シ

三、右ハ本邦委員ヨリ具体的ニ問題ヲ示シテ質問シタル結果ナルモ本件特許事業ニ付キ領土譲渡ノ結果消滅スベキ特別ノ理由詳細御回示アルニ於テハ更ニ賠償委員会ノ意嚮ヲ問ヒ質スベシ

四、尚二六〇条ノ適用ヲ受クベキ権利ノ表ヨリ「ヤルート」会社ノ削除方ヲ要求(?)ス尚前記無線電信会社ニ付テハ其権利ノ存否ニ付キ疑アルモ其存続セル場合ニハ当然敵国人財産清算ニ関スル我法令ノ適用ヲ受クベキ旨通告シ置キタリ

六〇六　三月八日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山ノ私的性質ニ関スル独国政府ノ陳述書英訳文入手ノ件

別　電　三月七日石井大使発内田外務大臣宛電報第三五一号

右陳述書英訳文

第三五〇号　（三月十日接受）

過日在当地独逸条約実施委員長「ミュチュス」他用ヲ以テ来訪ノ際本使ヨリ山東ニ於ケル鉄道鉱山問題ノ片付カザルハ日独両国ノミナラズ条約実施上面白カラズト軽ク述ベタルニ「ミュチュス」今七日本使ヲ来訪シ過日本使ノ言ヲ本国政府ヘ電報シタルニ今回政府ヨリ山東問題ニ関スル陳述書ヲ送リ越セリ右ハ既ニ賠償委員会ニ送リタルガ本使参考ノ為メ其ノ英訳ヲ供セント述ベ之ヲ本使ニ手交セリ（関場ガ問ヒ合セタル所ニ依レバ賠償委員会ニ達シタルハ長文ニシテ翻訳ハ今後五日ヲ要スル由）陳述書ハ別ニ電報スベシ

（別　電）

三月七日石井大使発内田外務大臣宛電報第三五一号
山東鉄道及鉱山ノ私的性質ニ関スル独国政府ノ陳述書英訳文

第三五一号　（三月十日接受）

Z. 0501a

EXPOSE

CONCERNING THE PRIVATE NATURE OF THE GERMAN RAILWAYS AND MINES MENTIONED IN ARTICLE 156, PARAGRAPH 2 OF THE PEACE TREATY.

The Peace-Treaty considers and treats the railways and mines mentioned in Article 156, paragraph 2 as property of the German State. As may be clearly seen from the history of the evolution of these undertakings, this manner of thinking is erroneous.

I. The fundamental provisions for the German rights in railways and mines are to be found in the Kiao-Tchao Treaty of March 6th 1898, Part II, some articles of which run as follows:

Art. I. 'The Imperial Chinese Government grant Germany a license for …… railway-lines in the province of Shantung' ……

Art. II. 'For the purpose of the construction of the …… railway-lines several German-Chinese railway companies will be constituted.
German and Chinese merchants may raise the necessary joint-stock'.

Art. III. 'The Chinese Government undertake to grant to the German-Chinese railway companies to be constituted favourable conditions for the construction and the running of the …… railway-lines so that in all economical questions these companies will not be placed at a disadvantage when compared with other Chinese-European companies in other parts of the Chinese empire.'

Art. IV. "Along the…… railway-lines…… German undertakers will be authorised to exploit coal-

deposits as well as to launch into other enterprises. German and Chinese merchants will be allowed to invest a joint-stock in these undertakings. In accordance with the obligation assumed with respect to railways, the Chinese Government promise to grant the German merchants and engineers favourable conditions, so that the German undertakers will not be placed at a disadvantage when compared to other Chinese-European companies in other parts of the Chinese empire."

From these provisions it clearly results that the contracting parties intended exclusively to constitute a private ownership with regard to the railways and mines. This intention which determined the action of the German Government when concluding the Treaty also obviously presided over the carrying out of the Kiao-Tchao Treaty. A decree of the Chancellor of the German Empire dated June 1st 1899 granted the "Schantung Eisenbahngesellschaft" a permit of building and of exploitation, the text of which runs inter alia as follows :

Paragraph 1.

The railway-line will have to be built and to be run by a …… German-Chinese joint stock company to be constituted.

Paragraph 2.

…… As regards the public subscription to the shares of the Company due care will have to be taken that both Germans and Chinese may participate in it"……

It was on the basis of this license that on June 14th 1899 the Schantung-Eisenbahngesellschaft was founded in Berlin as joint stock company according to German law, and that exclusively by private individuals. All the 54.000 shares were taken over by founders of the company.

In the contract concluded on March 21st 1900 by the Schantung-Einsenbahngesellschaft with the Governor of Shantung on the subject of the construction of the railway-line (Eisenbahnregulative) Article 1 lays special stress on the fact that the Company in question is a German-Chinese company issuing shares both to Chinese and to Germans and subsequently, shares have actually been purchased by Chinese.

Another decree of the Chancellor of the German Empire dated June 1st 1899 conferred a "Konzession zum Bergbau in der chinesischen Provinz Schantung" (mining license in the Chinese province of Shantung) upon a company which on October 10th 1899 was founded under the designation of "Schantung-Bergbaugesellschaft" likewise exclusively by private individuals, and that as a colonial company according to the legislation of the German Empire of March 15th 1888 and July 2nd 1889. The shares of the first joint stock amounting to 12 million marks were fully subscribed to by the founders. The Schantung-Bergbaugesellschaft likewise concluded on March 21st 1900 with the Governor of Shantung a contract upon the carrying out of their undertaking ("Bergbauregulative") a contract which specially underlines the fact that the company in question is a German-Chinese company issuing shares both to Chinamen and Germans.

By virtue of an Agreement concluded on February 5th 1913 by the "Schantungeisenbahngesellschaft" and the "Schantung Bergbaugesellschaft", the latter conferred upon the former the totality of their funds. Owing to the fusion with the mining-concern the statutes of the Eisenbahngesellschaft were, on February 12th 1913, subject to a revision, which, however, had no influence upon the legal character of the Company. The wording given to the statutes at that date has since then remained in full force.

II. The Kiao-Tchao Treaty not only authorised, but even obliged the German Government to grant to German-Chinese private companies licenses both

for constructing railway-lines and for mining. The fact that China granted the licenses not directly to the German companies, but first to the German Empire was in accordance with the usage then generally observed in China as regards the grant of licenses to foreigners. Pursuant to the Kiao-Tchao Treaty, the German Government transmitted the licenses to a private company, without becoming a partner to the undertakings by any vesting of funds in them.

The "Bau-und Betriebs-Konzession für die Schantung-Eisenbahngesellschaft" (license for building and exploitation) of June 1st 1899 has laid down as follows the rights of the German Government with regard to the construction and the running of the Shantung-railway :

1. Rights of control.

The election of the chairman of the Managing Board as well as that of the Manager-in-chief are subject to ratification by the Government (Para. 3).

The manner of fixing the track of the railway-lines within and without the Protectorate had to be approved of by the German authorities at Tsing-Tao and Pekin in order to assure that the interests of the Protectorate should be duly taken into account (Para. 4).

The time-table was to be officially approved of. For passenger and goods-tariffs the Government were entitled to fixing from time to time maximum rates (Para. 5).

Only in case of a contravention of the law by the Company the Government reserved unto themselves the right to confer upon a third party or to take themselves the management of the construction and the exploitation of the undertaking, and that by virtue of a verdict of a court of arbitration (Para. 6).

2. Duties.

As a contribution to the expenditure of the Empire for Tsing-Tao the company were bound to disburse an annual duty out of the net profits (Para. 11).

3. Right of re-purchase.

The empire reserved unto itself a right of re-purchase after the lapse of 60 years since the grant of the license against re-payment of the 25 fold amount of the dividends paid on an average during the last 5 years or against a compensation for the industrial value of the existing installations (Para. 12).

In reality the German Government had tacitly foregone this right of redemption by ratifying the "Eisenbahnregulative" agreed upon on March 31st 1900 between the company and the Chinese Government, rules and regulations which in Article 28 made the express reserve of a right of redemption of the Chinese Government.

In this connection we beg to refer yet to Paragraph 9 of the license according to which the company could only acquire against payment the premises needed for the construction of the railway-line in the Protectorate and owned by the Empire, which constitutes another proof of the fact that the company in question is an undertaking of purely private nature.

In an analogous fashion the "Konzession zum Bergbau in der Provinz Schantung" mining license of June 1st 1899 lays down the juridical situation of the German Government with regard to the mining-undertakings of the Schantung-Bergbaugesellschaft. According to this license the Government of the Empire :

1) were entitled to grant and to cancel an authorisation for prospecting and working a mine,

2) were entitled to claim that satisfaction be given at an exceptional price to the needs of coals of the Imperial Navy,

3) were entitled to claim disbursement of a duty upon the net-profits to the fisc of the Protectorate.

III. From what has been stated under II it results that with respect to the Shantung-railway and the mines exploited by it, Germany can only forego the rights, claims, and privileges that at the time of the conclusion of peace were yet her own, viz :

1) a certain right of control,

2) a claim to duties upon the net profits,

3) a right of re-purchase with reference to the railway-line, in case China should forego her own right of re-purchase.

As regards to totality of funds of the Schantung-Eisenbahngesellschaft, the plant of the railway-line Tsing-Tao-Tsinang-Foo with its branch-lines, inclusive of appurtenances of every description, the stations, warehouses, rolling stock and stationary stock, the mines, their plant and fittings, the German Empire has no share in all of this and, consequently, is not in a position to dispose of any of the said items without granting the owner—the Schantung

Eisenbahngesellschaft—full compensation.

Besides, the juridical situation of the company has been explained in detail in the "Statement of claims of the Schantung-Eisenbahngesellschaft" handed in December 1914 to the Japanese Government through the instrumentality of the American Embassy at Tokio.

BERLIN, February 14th, 1921.

六〇七 三月十日 内田外務大臣ヨリ在本邦瑞西国公使宛

山東鉄道会社ノ瑞西人株主ノ利益保護方申出ニ対シ回答ノ件

附記 二月一日在本邦瑞西国公使ヨリ内田外務大臣宛書翰

山東鉄道ニ関スル瑞西人株主ノ利益保護方ノ件

亜一送第六号

以書翰致啓上候陳者山東鉄道会社貴国人株主ノ利益保護方ニ関シ二月一日附貴翰ヲ以テ御申越ノ次第有之候処元来日本政府ハ巴里講和条約ニ拠リ山東鉄道及鉱山ニ関スル一切ノ権利ヲ独逸政府ヨリ取得セルモノニシテ同鉄道鉱山ニ関スル第三者ノ権利ニ付直接要求ニ応ズベキ責任ヲ帝国政府ニ於テ負フベキ筋合ニ無之加之同鉄道及鉱山ハ公的性質ヲ有スルモノト認メラレ居リ唯右鉄道及鉱山ガ私有財産タルコト証明セラレ関係当事国ニ於テ承認スル場合ニ於テ初メテ講和条約ニ定ムル賠償ノ原則ヲ適用スルコトト相成居候然ルニ右鉄道及鉱山ノ公私ノ性質未決ノ儘ト相成リ居リ従テ右鉄道及鉱山ノ所属者タル山東鉄道会社ニ対スル賠償ノ問題スラ未定ノ次第ニ有之況ンヤ同会社ノ株券所有者ニ対シ帝国政府カ責任ヲ有スルヤ否ヤ回答シ得ベキ地位ニ無之旁々右株主ノ権利ニ付何等保障ヲ与フベキ地位ニ在ラザルコトハ充分貴公使ニ於テ諒トセラルル所ナルベクト存候此段回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

(附記)

二月一日在本邦瑞西国公使ヨリ内田外務大臣宛書翰

山東鉄道ニ関スル瑞西人株主ノ利益保護方ニ関スル件

Légation de Suisse

Tokyo.

XII. C. 5

Tokio, le 1er février 1921.

Monsieur le Comte,

En me référant aux notes que cette Légation a eu l'honneur d'adresser à Votre Excellence en date des 13 mai, 26 juin, 20 décembre 1919, et 29 juillet 1920, et à la réponse no. 109 qu'Elle a bien voulu lui adresser en date du 9 août, j'ai l'honneur de Lui rappeler le prix que mon Gouvernement attacherait à connaître les mesures qui seront prises en vue de sauvegarder les droits des actionnaires suisses de la compagnie allemande du chemin de fer de Shantung. Il résulte en effet du tableau récapitulatif que Votre Excellence trouvera sous en pli en deux exemplaires que 422 actions de cette entreprise appartiennent de bonne foi à des citoyens suisses, qui ne pourraient équitablement être dépouillés de leurs droits. Je serais infiniment reconnaissant si Votre Excellence voulait bien me faire savoir si le moment est venu de donner

à mon Gouvernement les assurances désirées à cet égard.

Je saisis cette occasion, Monsieur le Comte, pour réitérer à Votre Excellence, les assurances de ma plus haute considération.

2 annexes. (註) (Signé) Charles L. E. Lardy

Son Excellence

Monsieur le Comte Yasuya Uchida,

Ministre des Affaires Etrangères,

etc., etc., etc.

註 附属書（同文二通）省略

六〇八 三月十日 内田外務大臣ヨリ在本邦蘭国公使宛

和蘭人ノ所有スル山東鉄道会社株式ニ関スル申出ニ対シ回答ノ件

附記 二月一日在本邦蘭国公使ヨリ内田外務大臣宛書翰 山東鉄道ニ関スル蘭国人株主ノ利益保護方ノ件

亜一送第一八号

以書翰致啓上候陳者二月一日附貴翰ヲ以テ山東鉄道会社ハ独逸国人ニ依リ支配セラルル会社ト認メラレ其ノ結果「ヴェルサイユ」平和条約第二百九十七条ニ依リ清算セラルベキモノナリヤ否ヤ御照会越ノ次第有之候処元来日本政府ハ山東鉄道及鉱山ニ関スル一切ノ権利ヲ独逸政府ヨリ取得シタルモノニシテ殊ニ反対ノ証明ナキ限リ之ヲ公的性質ヲ有スルモノト認メラレ居リ従テ帝国政府ニ於テハ御申出ノ如キ次第ニ付考慮ヲ加フルノ地位ニアラザルハ充分貴公使ニ於テ諒トセラルル所ナルベク尚「ヴェルサイユ」平和条約中山東鉄道及鉱山ニ関シテハ第百五十六条及附属議定書(ニ)ノ二規定アルニ過ギズシテ本件ハ右二規定ニ依リ処理セラルベキ次第ニ有之候条右ニ御諒承相成度此段回答申進旁々本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

（附記）

二月一日在本邦蘭国公使ヨリ内田外務大臣宛書翰

山東鉄道ニ関スル蘭国人株主ノ利益保護方ノ件

Légation Royale
des
Pays-Bas.

No. 89 Tokio, le ler février 1921.

Monsieur le Comte,

Le Ministre des Affaires Etrangères à la Haye me prie de le renseigner si la Société Anonyme "Shantung Eisenbahn Gesellschaft", dont quelques actions sont entre les mains de sujets néerlandais, est considérée par le Gouvernement Japonais, comme "une société contrôlée par des ressortissants allemands" et s'ilen résulte qu'elle sera liquidée conformément aux stipulations de l'article 297 du Traité de Versailles.

J'ai l'honneur de recourir à l'obligeant intermédiaire de Votre Excellence en La priant de vouloir bien me mettre à même de fournir le renseignement demandé.

En La remerciant d'avance de la suite qu'Elle voudra bien faire donner à cette demande, je saisis cette occasion d'offrir à Votre Excellence, Monsieur le Comte, les assurances réitérées de ma plus haute considération. (Signé) De Graeff

Son Excellence

Monsieur le Comte Yasuya Uchida,

Ministre des Affaires Etrangères

à Tokio.

六〇九 三月十二日 在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道鉱山ニ関スル独国ノ陳述書ニ関シ請訓ノ件

第三八五号 （三月十四日接受）

賠実第一〇六号

第一、往電第三五〇号山東鉄道鉱山ニ関スル独逸ノ陳述書ニ付テハ其後財政部ヨリ仏文英訳ヲ送附シ来レリ右ハ既ニ送附シタル陳述書ニ左ノ附属文書ヲ添附シ日本委員トノ非公式会合ニ基ヅキ本書ヲ提出スル旨ノ書翰ヲ添フ（附属書写郵送ス）

(イ)一九一四年十二月山東鉄道会社カ米国大使館ヲ経由シテ日本政府ニ提出シタル要求書(ロ)会社定款(ハ)鉄道建設及運賃ニ関スル会社ニ対スル特許条件(ニ)千九百年山東省官憲ト山東鉄道役員トノ間ニ鉄道建設ニ関シ取極メラレタル鉄道規則(ホ)鉱山ニ関スル特許条件(ヘ)山東鉱山会社定款(ト)一九一四

年十二月作成ニ係ル鉄道鉱山ノ処置ニ関スル独逸領事ノ意見

第二、右陳述書ハ一八九八年膠州湾条約及一八九九年十月鉄道鉱山特許ニ関スル独逸帝国ノ二勅令ノ規定及前掲附属文書ヲ引用シテ会社ガ私的性質ヲ有スルコトヲ証明セントスルモノナル処之ニ対シ何等カ反証ヲ提出スルモノアリトセバ至急御回示ヲ請フ

第三、尚公私有認定ニ付時日ヲ費スニ於テハ五月一日迄ノ貸借対照表作成ニ間ニ合ハザルベク従テ「スパー」協定第四条第三項第四号ノ利益ヲ失フコトアルベキヲ恐ル就テハ非公式会合ニ於テハ公私有審査ニ関シテハ留保ヲナシ置キ他方評価問題ニ就テハ之ニ関スル材料ヲ請求スルヲ得策トスベク該方針ノ下ニ進行セシメタキニ付右御含ミ相成度シ

第四、依ッテ貴電第一五〇号第四ヲ以テ御申越ノ評価調査ハ勿論此際必要ト思料ス至急御電報相成度尚右評価ニ就テハ左記ノ事項併セテ承知致シ度シ

(イ)戦争開始当時ニ於ケル会社財産価格(ロ)占領当時ニ於ケル独逸ニ責任アリト認ムベキ被害調査(ハ)占領後ニ於ケル帝国ノ改良復旧費年割調査(ニ)占領後毎年収益調査及個人経営ニ依リタルモノト仮定シ総テノ経費ヲ差引キタル毎年ノ純益調査

在英仏各大使ヘ転電セリ

六一〇　三月二十八日　内田外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

山東鉄道鉱山ニ関スル独国陳述書ニ関シ回訓及問合ノ件

第二八四号

貴電第三八五号（賠実第一〇六号ニ関シ）

(一)本件陳述書ノ提出ノ動機タル日本委員トノ非公式会合トハ貴大使ト「ミュチュス」トノ会談ヲ指スモノナリヤ或ハ我賠償委員トノ別ノ会合ヲ指スモノナリヤ若シ後者ナリトセバ会合ノ模様及結果ニ就テハ未ダ何等御報告ニ接セザル処右会合ノ経過ハ本件審議上委曲承知シ置キタキニ付折返シ電報アリ度ク尚独逸側ガ本件陳述書ヲ賠償委員会ニ提出スルニ至レルハ貴電第三五〇号ニ依ルモ全然独逸側ノ自発的措置ト認ムルモ右ハ前記非公式会合ノ際何等カ話合アリタルニ基クモノナラズヤ併セテ回電アリタシ

(二)独逸側陳述書ニ対スル当方ノ所見ニ付テハ篤ト審議ノ上成ルベク速カニ何分申進ズベキモ差当リ貴電第三ノ通リ公私有ノ審定ヲ留保シ他方評価問題ニ関シ非公式下打合ヲ進メラルルニ異存ナシ尚ホ独逸政府ノ採ラムトスル評価方法ノ如何ハ当方ニ於テ準備調査ノ方針ヲ定ムル上ニモ関係アルニ付最近ノ会合ニ於テ此ノ点ニ関スル独逸側ノ意向ヲモ探ラレ結果回電アリタシ

(三)貴電第四ニ関スル資料ハ出来得ル限リ蒐集ノ上追テ何分申進スヘシ尤モ(イ)戦争開始当時ニ於ケル会社財産価格ニ関シテハ此際之ヲ詳悉スルコト殆ト困難ナルベキ処右ハ貴官ニ於テ特ニ何等カノ必要ヲ認メラルル次第ナリヤ是亦併セテ電報アリタシ

在英独各大使ニ転電アリタシ

六一一　三月三十日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

賠償委員会独国側代表者ト山東鉄道鉱山評価ニ関シ会談ノ件

第四七〇号　（四月一日接受）

賠実第九十六号

第一、在英大使発賠実第八十九号第五ニ基キ関場ハ一月二十二日日本委員事務所ニ於テ賠償委員会財政部員ノ紹介ニ依リ非公式ニ独逸側代表者 Von Oertzen ト会見シタリ本会見ハ単ニ山東鉄道鉱山評価ニ関スル実際問題ニ付意見ヲ交換スルコトニ各員諒解ス

第二、Von Oertzen ト会談セル要領左ノ通リ

(イ)同氏ハ山東鉄道等ハ私立会社ノ所有ナルヲ以テ独逸ハ会社ニ対シ補償シ従ッテ議定書第二項ノ German nationals モ会社ヲ指スモノト諒解シタシ之レ各種ノ実際問題ヲ考慮シ従来ノ見解ヲ変更シタルモノナリ価格ニ付テハ未ダ意見ナク寧ロ日本ノ意見ヲ聴キタシ

(ロ)関場ハ若シ該鉄道等ニ対シ個人ノ権利アリトセバ日本ハ之ニ関スル独逸ノ証明ヲ俟ツ地位ニ在リ之レ講和会議ノ基礎タル「コンディションス、オブ、ピース」ヲ見ルモ明カナリ而シテ証明ヲ得タル場合ニ於テ其ノ価格ニ付テハ独逸ヨリ調査書ヲ提出スル方捷径ナラズヤト陳ベタルニ独逸委員ハ未ダ何等ノ意見ナキモ唯独逸政府ハ会社財産ハ凡テ私有ナリト思考ス其ノ証拠書類及評価ニ関スル材料ニ付テハ伯林ニ早速電報スベキモ回答ノ期ハ約シ得ズト答フ

第三、本会合ノ結果ハ之ヲ将来ノ成行ニ徴スルノ外ナキモ

財政部員ノ内話ニ依レバ独逸ハ嘗テ伯林ニ於テ日本側ト交渉スルノ提議ヲナシタルモ賠償委員会ハ之ヲ容レザルノ意見ナリシト云フ惟フニ今回ノ非公式会議ハ賠償勘定貸借対照表ニ於ケル貸方記入問題ニ起因シ従テ此点ニ於テ賠償委員会ト離ル可ラザル関係ニアルヲ以テ事件ノ進展ニ連レ公式ノ協議ヲ為ス場合ニ於テハ巴里ニ於テ之ヲ行フヲ便宜ト思考スル処賠実第九十号第三ノ件ト共ニ至急御回電ヲ乞フ

在英独各大使ヘ転電セリ

六一二　四月一日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道鉱山ニ関スル評価ニ関シ交渉状況報告竝ニ意見開陳ノ件

第四八三号　（四月三日接受）

賠実第一一五号

貴電第二八四号ニ関シ

一同電(一)独逸側トノ非公式会合ニ就テハ賠実第九六号及第九八号第一参照アリタシ右会合ニ於テ独逸カ私有ヲ主張スルニ於テハ日本ハ之ニ関スル独逸ノ証明ヲ待ツノ地位ニ在ルコトヲ説明シ置キタルガ元来非公式会合ニ就テハ賠実第八九号第五ノ事情ニ依リ財政部取次ヲ為シタル関係アリ従テ賠実第一〇六号ノ陳述書ハ同部員ノ取次ヲ経テ本邦委員事務所ニ提出セラレタル次第ナリ（賠実第九〇号第三並第九六号第二(ロ)及第三参照）

二同電(二)末段ニ就テハ御垂示ノ通リ今後ノ非公式会合ニ於テ出来得ル限リ独逸側ノ意嚮ヲ確ムヘシ尤モ賠償問題ニ就キ倫敦最高会議不調ニ帰シタル以来**RC**ノ事業益々緊要ノ度ヲ増シ来リタルハ自然ノ勢ナルガ之ニ対スル独逸側ノ態度ニ就テハ別ニ報告スベキモ要スルニ質議挙証ノ一点張ナルガ如ク損害評価ノ原則ハ勿論条約第二三五条ハ独逸ノ給付シタル財産ヲ初メ各種譲渡財産ノ制定ニ関スル原則ニ就キ悉ク**RC**ノ意見ト一致ヲ得ザル状勢ナリ従テ此ノ際独リ議定書第二ノ独逸ノ貸方ニ記入スヘキ金額ニ付一致点ニ到達スルコトハ至難ナルヘシ元来山東鉄道ニ関スル独逸側トノ協議ニ就テハ数度電請シタル次第モアリタルガ延引ヲ重ネ今日ノ状勢ニ逢着スルニ至リタルコト甚タ遺憾ナリ独逸側ヨリハ催促ノ結果私有ノ証拠書類ヲ提出シ来リタレドモ賠実第九六号第二評価ニ関スル書類ハ未ダ提出シ来ラズ前述ノ事情ニ依リ将来非公式ノ会合ノ価値ハ余リ多カラザルベク彼我円満ノ解決ヲ見ルコト頗ル困難ナルヘシ依テ今ノ処賠実第九八号第五ノ如ク仮見積ヲ為シ五月一日迄ニ我勘定ノ借方ニ記入セシムル為メ**RC**ニ対シ必要ナル手段ヲ講ズルノ外道ナキカト思考ス

三同電(三)ニ就テハ評価ヲ為スニ際シ先ヅ戦争開始当時ニ於ケル財産価格ヲ見積リ之ヨリ戦争其ノ他ニ依ル損害額ヲ控除シタルモノヲ我借方ニ記載スルコトモ一方法ナルヘシト認メ種々ノ場合ヲ考慮シテ準備シ置ク為メ右御照会ニ及ビタル次第ナリ依テ評価ニ関スル種々ノ材料ハ出来得ル限リ御取調ノ上至急御通知アリタシ

在英並在独大使ヘ転電セリ

六一三　四月四日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

補償ノ対象ヲ会社トスルコト竝価格及日独公式協議等ニ関シ回訓ノ件

第三〇九号

貴電第四七〇号（賠実第九六号）及第四八三号（賠実第一一五号）ニ関シ(一)独逸側ニ於テモ山東鉄道会社ヲ以テ補償ノ対象ト為スノ態度ニ出デ来レルハ偶々我方ノ希望トモ合致スルモノニシテ頗ル好都合ト存ゼラルルニ付将来モ右方針ヲ持続スル様精々御尽力アリ度シ(二)価格ニ付テハ独逸側ニ意見無ク先ヅ我方ノ意見ヲ聴キ度シトノ希望ノ由ナルモ之ニ応ズルコトハ頗ル機微ノ考慮ヲ要スル次第ニ付姑ク先方ノ評価ニ関スル提議ヲ待ツコトト致度其ノ結果又ハ貴電賠実第一一五号二ノ事情ニヨリ五月一日迄ニ決定ヲ見ル能ハザルニ於テハ仮見積ヲ為スノ外ナカルヘシ(三)貴電賠実第九六号第三御来示ノ趣旨ハ賠償委員会ト離レ単ニ我方ト独逸側トノ間ニ巴里ニ於テ公式ノ協議ヲ開ク意味ナラバ当方ニ於テハ異存無キモ愈々公式ノ協議ニ移ラントスル場合ニハ予メ請訓アリ度ク又貴電第七七号（賠実第九〇号）第三ニ依レバ右公式協議ハ賠償委員会ニ於テスルモノナルヤニモ解セラルル処果シテ然リトセバ先決問題トシテ我委員ノ参加権問題決定ノ要アルベキニ付同問題其後ノ成行回電アリタシ

英独ヘ転電アリタシ

六一四　四月二十三日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

山東鉄道及鉱山ノ私的性質ニ関スル独国政府陳述書ニ対スル我方ノ反駁覚書ニ付指示ノ件

別　電　同右電報第三七七号
右反駁覚書

第三七六号

貴電第三五〇号独逸陳述書審査ノ結果別電第三七七号ノ通之ニ対スル反駁覚書ヲ作成セリ原文ハ英訳文ト共ニ郵送スヘキニ付右接到前我方ノ態度ヲ通告スル必要アラバ別電ノ趣旨ニ依リ後日 Confirmation ヲ要スル形式ニテ通告方可然取計ハレ度シ

別電適当補塡ノ上本電ト共ニ在英独各大使ヘ郵報アリタシ

尚ホ本問題経過大要在米大使ヘ郵報シ置カレタシ

(別　電)

四月二十三日内田大臣発在仏国石井大使宛電報第三七七号
山東鉄道及鉱山ノ私的性質ニ関スル独国政府陳述書ニ対スル我方ノ反駁覚書

第三七七号

日本政府ハ山東鉄道及鉱山ノ私的性質ヲ立証セムトスル独逸政府ノ陳述書ヲ閲悉セリ

査スルニ山東鉄道及鉱山ガ公的性質ヲ有スルモノナルハ既ニ巴里ニ於ケル平和会議ニ於テ公認セラレタル所ナリト雖モ此ノ機ヲ以テ左ニ日本政府ノ所見ヲ敷衍開陳セムトス

抑モ（此次ニ「日独戦役講和準備委員会決議及説明」一八頁四行目冒頭「山東鉄道及鉱山」ヨリ廿頁五行目終リマテ多少「テニヲハ」ヲ替ヘ全部其儘採録）翻テ前記独逸政府ノ陳述書ハ（以下右陳述書ノ要旨ヲ摘録ス此部分原文省略）要スルニ独逸政府ノ主張ハ独逸国民ガ山東鉄道及鉱山ニ対シ私有権ヲ有スルコトヲ論述セムトスルモノニ過ギズシテ日本政府ガ該財産ヲ以テ公的財産ト認メタル論拠ニ対シテハ何等触ルル処ナキノミナラズ却テ之ヲ裏書スルモノナキニ非ズ惟フニ独逸政府ハ単ニ財産権ノ所在如何ニ依リ公私財産ヲ区別スル唯一ノ標準ト看做スガ如キモ国際法上所謂私有財産ノ尊重トハ私人ガ特ニ国家ノ生活ニ関係ナク所有スルモノヲ尊重セムトスルニアリ仮令私人ノ保有セル財産ト雖モ国家ト特別ノ関係ニ立チ政治的並ニ軍事的ノ目的ヲ有スルモノニ対シテハ必ズシモ私有財産尊重ノ原則ヲ適用スベキ限ニアラズ然リ而シテ山東鉄道及鉱山ハ上述ノ如ク独逸国家ト特別ノ関係ニ立テル財産ニシテ日本政府ガ之ヲ公的財産ト認ムルニ至レルモ将ニ此関係ニ基ケルモノナルガ故ニ右認定ハ私人ガ之ヲ保有シ独逸国家ガ之ヲ保有セザリシコトノ証明ノミヲ以テ之ヲ覆シ得ベキモノニアラズサレバ右独逸政府ノ論駁ニ拘ラズ日本政府ハ依然トシテ其ノ主張ヲ更改スベキ何等ノ理由ヲモ発見シ難シト雖モ日本政府ハ該鉄道及鉱山ニ関シ独逸国民ノ有スルコトアルベキ利益ヲ尊重シ平和条約附属議定書第二項ノ規定ヲ設クルコトヲ甘諾セルヲ以テ独逸政府ニシテ右規定ニ所謂独逸国民ノ利益ノ存在ヲ証明スルニ於テハ日本政府ハ素ヨリ右規定ノ実行ニ躊躇スルモノニアラズ而シテ独逸政府ガ其ノ陳述書ニ於テ私人ノミニ依リテ設立セラレタル山東鉄道会社ガ山東鉄道及鉱山ノ設備全体ニ対シ利益ヲ有スル旨ヲ指摘シタルハ畢竟平和条約附属議定書第二項ニ所謂独逸国民ノ有スル利益ノ存在ヲ立証セムトスルモノナルヲ以テ日本政府ハ之ヲ以テ将来平和条約附属議定書第二項ノ規定実行ノ際ニ於ケル商量ノ基礎タルベキモノト認ムヘシト然リト雖独逸貸方ニ計上スヘキ補償額ニ至テハ前記山東鉄道会社等ノ特別ノ地位ニ鑑ミ当然特殊ノ考量ヲ為スベキモノナリト思考ス

六一五　四月二十四日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

賠償委員会独国委員山東鉄道及鉱山ノ評価ニ関シ関場ニ説明ノ件

第六一九号　（四月二十五日接受）

賠実第一三四号

賠償委員会財政部ハ（賠実第一三三号所報ノ通）本邦側ニ指数ノ提示ヲ求ムルト共ニ独逸側ニ対シテモ計数提出方ヲ厳督シ又我方モ機会アル毎ニ独逸側ヨリノ提案ヲ促スノ方針ヲ執リタル処独逸委員 Oertzen ヨリ面会ノ要求アリタルニ付関場ハ二十三日我事務所ニ於テ会見ス独逸委員ハ昨日伯林ヨリ評価ニ関スル書類ヲ接受セリ財政部ヨリモ督促甚シキヲ以テ来ル月曜日提出スベキモ右提出前計数ノ大要ヲ説明スベシトテ左ノ数字ヲ示ス

(一)鉄道ニ付テハ(a)建設価額ニ依ルモノ六二、一二〇、〇〇〇金貨馬克(b)収入ヲ基礎トシ価額ヲ算定セルモノ九六、五六〇、〇〇〇(c)日本鉄道買収法第五条ノ計算方法ニ依ルモ

ノ八二、四〇〇、〇〇〇(c)ハ特別ノモノ故(a)(b)ノ平均即チ七九、〇〇〇、〇〇〇ト定ムルヲ適当ト認ム

(二)鉱山ニ付テハ(a)石炭礦九、五〇〇、〇〇〇金貨馬克(b)鉄礦二、〇〇〇、〇〇〇計一一、五〇〇、〇〇〇

(一)(二)ノ合計九〇、五〇〇、〇〇〇トナル

而シテ関場ハ数字非常ニ大ナルガ右ハ紙幣馬克ニアラズヤト云ヘルニ対シ独逸委員ハ賠償委員会ニ対スル関係ニ於テハ可成高ク評記スルヲ利トスルモ本件ニ付テハ同時ニ国民ニ補償スルヲ要スルヲ以テ政府トシテハ法外ナル価額ヲ提案スルコト能ハズト弁ジ更ニ会社ノ算定ヲ基礎トシタルヤヲ問ヘルニ対シ政府ノ命ジタル評価人ノ評価ナル旨ヲ答ヘタリ依テ関場ハ独逸政府ノ補償スベキ物件ハ単リ山東鉄道ニ止ラズ斯クノ如キ標準ヲ以テ補償スルトキハ政府ノ負担ハ到底堪ヘザルベキニアラズヤ特ニ割譲地域内ニアル独逸国民ノ財産ハ当該国ノ法令ニ依リ精算セラルル結果評価低キハ実際ナリ之等ト比較スル時ハ権衡ヲ得ズト述ベタルニ独逸委員ハ山東鉄道ニ付会社ノ失ヘル利益ハ将来事業ノ有望ナルニ鑑ミ決シテ過当ニ見積リタルニアラズト信ズルモ更ニ日本ノ意見ハ政府ノ考慮ニ供スベシト云ヘルヲ以テ関場ハ価額非常ニ高ク到底日本政府ノ承認シ得ザルモノナレドモ一応政府ニ取次ギ其意見ヲ求ムベシ同時ニ日本ハ貴方提出ノ私有証明ノ文書審査中ナルモ事件ノ実際的解決ヲ切望スル余リ非公式ニ会見シツツアル次第ナレバ今後モ可成頻繁ニ意見ノ交換ヲ希望スル旨述ベタルニ了承シタリ

英独ヘ転電セリ

六一六　四月二十五日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山ノ評価ニ関シ賠償委員会財政部ハ法律部ノ意見ヲ求メ又右両部ヨリ我方ノ意見ヲ承知シ度旨申出ノ件

第六二五号　（四月二十七日接受）

賠実第一三五号

財政部ハ山東鉄道鉱山ノ評価ニ伴フ問題ヲ解決スル為メ賠実第八九号所報ノ外更ニ他ノ件ニ付法律部ノ意見ヲ求メ又財政、法律両部兼テ本邦側ノ意見ヲ承知シ度キ旨申出アリシヲ以テ来ル二十八日関場ハ法律部ト会見ノ筈

独逸代表者ノ陳述及其提出セル書類ニ依レバ山東鉄道会社ハ独逸法ニ依リ登記セラレタル私立会社ニシテ独支両国人之ニ関与セルモノナリ其株式ハ無記名ナルヲ以テ一定ノ時期ニ於ケル其所有者ヲ調査スルコト不可能ナリ然レドモ独逸政府ハ現在及過去ニ於テ該株式ヲ所有セザルコトニ付テハ公式ニ確認シタリ

会社事業ノ一部分ハ戦時中日本ノ占領セル区域ニ又他ノ一部ハ支那領土内ニ存在ス支那ハ講和条約ニ調印セザルヲ以テ本特許事業ノ支那領土内ニ存スル部分ノ引渡ヲ承認スルモノト看做スコト能ハザル可シ更ニ該会社財産ノ大部分ハ青島陥落ノ際独逸軍事当局ニ依リ破壊セラレタリ

議定書第二項ニ依リ独逸ノ貸方ニ掲記スル金額ヲ定ムル為メ財政部ハ左ノ点ニ関シ法律部ノ意見ヲ求メ度シ

(a)第一五六条ハ独逸政府ニ対シ会社ノ株券ヲ実際ニ引渡ス（脱）リヤ或ハ本条ハ単純ニ会社財産ヲ日本政府ニ引渡スモノナリヤ

(b)独逸国民ガ如何ナル権利、利益ヲ有スルコトアリヤノ問題ハ第二四三条ニ依リ賠償委員会是ヲ決ス可キヤ又ハ日本政府是ヲ決ス可キヤ

(c)議定書ノ規定ハ独逸ノ株主ニ支払コトアル可キ補償金額ヲ独逸ヲシテ其貸方ニ記入スルコトヲ許シ独逸人以外ノ株主ハ日本政府ニ補償ヲ要求スル筋合ナリヤ或ハ会社自身ヲ独逸国民ト看做シ会社ニ支払フ補償ヲ独逸ニ貸記シ株主ハ会社ヨリ割前ヲ得ルノ趣旨ナリヤ

(d)独逸政府ノ補償額ガ戦前ノ会社財産価額ヲ標準トセル場合ニ賠償委員会ハ右金額全部ヲ独逸ノ貸方ニ記入スルノ要アリヤ又ハ其金額ハ日本政府ニ譲渡セラレタル当時ノ価額ヲ標準トシ軍事行動ニ依リ会社ニ加ヘラレタル損害ハ独逸ガ責任ヲ負フモノト解ス可キヤ

右ニ対スル本邦委員ノ意見トシテハ(a)ハ後段ノ通リ従テ株券ハ会社ト株主トノ関係ニシテ日本ハ何等関係ナキモノナルコト(c)ニ付テハ会社ヲ対象トス（脱）ク実際上ノ便宜論トシテモ日独共ニ異存ナキコト(d)ニ付テハ軍事行動ニ依ル損害ハ独逸政府ノ責任ナルコトヲ主張スル考ヘナルモ(b)ノ審査権ハ従来ノ懸案ニシテ日本政府ノ審査権ヲ主張スルモ其貫徹困難ナル可キコト特ニ御承知ヲ請フ

在英独各大使ヘ転電セリ

六一七　四月二十六日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

独国ノ提出セル山東鉄道私有立証ニ関スル陳

述書ニ対スル我方ノ反駁覚書ニ関連シ意見上申ノ件

第六二七号　（四月二十八日接受）

暗実第一三六号

貴電第三七六号ニ関シ

独逸ノ提出セル山東鉄道私有立証ニ付貴電第二八四号ノ㈠ニ付テハ公私有ノ認定ヲ留保シ他方評価問題ニ関シ非公式ニ打合ヲ進ムルニ御異存ナキ旨及貴電第三〇九号ノ㈡ヲ以テ五月一日迄ニ独逸側ト評価ノ決定ヲ見ル能ハザルニ於テハ仮見積ヲナスノ外ナキ旨御訓電ニ接シ居ルノミナラズ賠償委員会ニ於テ度々本邦側ノ概数ノ問合ヲナシ居ルノ状況ハ屢々申進メタル通リ。而シテ五月一日モ次第ニ切迫シ来レルヲ以テ公私有認定ニ関スル問題ハ留保ニ留保ヲ加ヘ貸借対照表ニ掲記スベキ概数ニ付一面御訓電ヲ待チツツ同期日迄ニ賠償委員会ニ兼テ御申越ノ範囲内ノ金額ヲ通知シ折合ヲ得ント尽力シ余リ深入セザル程度ニ於テ相当手当ヲ整ヘ居ル次第ナリ。然ル所本日接到セル反駁書ヲ突如トシテ賠償委員会ニ提出スルトキハ問題ハ公私有認定ニ逆転シ一方評価ニ関スル仮記入ヲ進行セシムルニ不都合ヲ来シ従テ従来トリタル手筈ニ手違ヲ生ズルノミナラズ賠償委員側ノ感情ヲ害シ延イテ大局ヲ利スル所以ニ非ズト思考ス加之右反駁後段ニ依レバ全然独逸ノ陳情ヲ拒絶スルニ非ズシテ将来商量ノ基礎トスル旨記載シアルヲ以テ単ニ問題ノ審査ヲ五月一日以後ニ延引セシムルニ過ギザルノ結果トナルヲ以テ他日若シ必要アル場合ハ格別此際ハ本反駁ヲ賠償委員会ニ提出スルコトヲ見合セ暗実第一三五号所報ノ法律問題解決セル際ハ更ニ仮見積ニ付財政部ト交渉ヲ開始シ以テ五月一日迄ニ貸借対照表ニ掲記セシムル方針ニ依ルコト最機宜ニ適シ得策ト思考ス時日切迫更ニ経伺ノ余日ナキニ付止ムナク右方針ニテ進行スベク御含ヲ請フ

在英独大使ヘ転電セリ

六一八　四月二十七日　内田外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

山東鉄道鉱山ノ財産価格ニ関スル計数通報ノ件

第四〇〇号

往電第一五〇号及貴電第三八五号並第六一一号ニ関シ御参考トナルヘキ計数左ノ通

（青島守備軍調査ニ基ク右調査報告書郵送ス）尚仮評価ノ必要アル場合ニハ其額ハ左記㈡ニ基キ約二三、〇〇〇、〇〇〇円トナシ置キ度ニ付右ニ御取計アリ度

㈠戦争開始当時ニ於ケル財産価格

㈠一九一三年十二月末ノ会社決算報告ニ拠リ臨時鉄道聯隊調査部ニ於テ算定セルモノノ内現金及債権債務ヲ除外セル有体財産鉄道六一、二一四、五五九馬克鉱山七、九八一、九〇九馬克

㈡一九一四年度山東鉄道会社興業費予算ニ依ル同一月ヨリ戦争開始ニ至ル迄ノ投資推定額鉄道七五六、一九四馬克鉱山二一九、一七五馬克

㈡占領当時ニ於ケル財産価格

㈠鉄道、一九一四年十一月七日占領当時ニ於ケル状態ヲ斟酌シ各物件ニ付標準単価ヲ定メ之ニ依リ算定セル時価（但シ全然被害ナカリシモノト看做シ）二一、三七四、五八三円ヨリ戦争及水害ニ因ル損害見積額八四五、〇六四円ヲ差引キタル額二〇、五二九、五一九円

㈡鉱山、会社決算報告ニ依ル一九一三年十二月末日現在価格三、二四〇、一二六円ニ一九一四年度会社興業費予算ニ依ル同年一月ヨリ十月十二日占領ニ至ル迄ノ投資見積額一〇七、七三九円ヲ加算シタルモノヨリ占領ニ至ル迄ノ原価償却見積額一〇九、八六七円及戦争及水害等ニ因ル溜川炭鉱損害額（一九一六年度迄ノ復旧費ヲ損害額ト看做シ）三六九、五二七円ヲ差引キタル額二、八六八、四七一円

㈢占領当時ニ於ケル独逸ニ責任アリト認ムヘキ被害

㈠鉄道、三〇六、二一六円

㈡鉱山、三六九、五二七円

㈣占領後ニ於ケル復旧費年割（鉄道ニ就テハ左記ノ復旧費以外輪転材料其他ノ復旧ニ投シタル費用アルモ現存帳簿上其費額ヲ算出スルコト困難ニ付実際ノ復旧費ハ之ヨリモ多額ナリ改良費ニ関シテハ追テ電報ス）一九一四年度鉄道一二一、九六〇円鉱山七〇、五五七円一九一五年度鉄道二〇六、三八六円鉱山二八三、三一三円一九一六年度鉄道ナシ鉱山一五、六五六円

㈤現在官営ノ下ニ於テ仮リニ算定セル損益

（個人経営ニ拠リタルモノト仮定シテノ純益計算ニ関シテハ同鉄道ノ経理カ特別会計トナリオラサル為調査困難

ナリ）

一九一四年度欠損　一四、三五一元
一九一五年度利益　二、一〇一、四九九元
一九一六年度利益　三、一六九、七五三元
一九一七年度利益　三、四六〇、九〇〇元
一九一八年度利益　三、〇七九、八六二元
一九一九年度利益　三、三四〇、六〇三元

（右単位ハ青島守備軍ノ公定相場ニ拠ル）

六一九　四月二十八日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

海底電線ニ関スル独国ノ提出セル評価額ニ関シ報告ノ件

第六四七号　（四月三十日接受）

賠実第一三七号条約第八編第七附属書ニ依リ独逸ノ放棄シタル海底電線ニ付賠償委員会カ評価ニ関スル一切ノ権利ヲ留保スル旨決議シタルハ賠実第五五号所報ノ如シ右ニ関シ最近第二三五条ノ関係ヨリ独逸ノ提出セル評価額ハ七九、四四四、五二八金貨馬克ニシテ内日本ニ関係アル「ヤップ」、上海間六、五八一、八五九金貨馬克

「ヤップ」「グアム」間二、〇五四、〇八四
「ヤップ」「メナド」間三、九二五、七四四

ナリ賠償委員会実物賠償部ハ目下右価額ニ付審査中ナル処所属問題確定セサル今日帰属国毎ニ其帰属線ノ金額ヲ借記スルコトハ之ヲ差控エ居ルカ右日本関係分ノ評価額ハ客年貴電第五二五号ニ五百万円トアル所他日問題トナルヘキ場合ノ準備トシテ評価詳細御取調ヲ乞フ

英独大使へ転電セリ

六二〇　四月三十日　内田外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

ヤップ関係海底電線ノ評価推算報告ノ件

第四一七号

貴電第六四七号ニ関シ「ヤップ」関係海底電線ノ評価推算左ノ通

一、前記三海底電線投資総額一三、二四二、四二一馬克
（一千三百二十四万二千四百二十一馬克）

右邦貨換算額六、三八五、四九六円（六百三十八万五千四百九十六円）

二、布設当時ノ価格ヲ基礎トシテ一九二〇年迄ノ減額見積額ヲ控除シタル三海底電線総価格四、四六九、八四七円（四百四十六万九千八百四十七円）

三、内訳左ノ通

(イ)ヤップ、メナド間、線長、一、〇七六海里。種別、銅線一五〇封度、ガタパーチャ、一五〇封度。布設ノ年、一九〇五年。減価格見積額ヲ控除シタル現在価格一、一九七、九一九円（百十九万七千九百十九）

(ロ)ヤップ、グワム間、線長、五六三海里。種別、銅線、一五〇封度。ガタパーチャ一五〇封度。布設ノ年、一九〇五年。減価見積額ヲ控除シタル現在価格、七四一、九九五円（七十四万一千九百九十五）

(ハ)ヤップ、上海間、線長、一、七七九海里。種別、銅線三〇〇封度、ガタパーチャ、二四〇封度。布設ノ年、一九〇五年。減価見積額ヲ控除シタル現在価格二、五二九、九三三円（二百五十二万九千九百三十三）

四、備考

(イ)投資総額ハ独蘭電信会社事業報告ニ記載セラレタルモノニ依ル従テ独蘭ノ持分全部ヲ含メルモノナリ独蘭ノ各持分ニ付テハ何等ノ記録ナキヲ以テ分割計上スルヲ得ス

(ロ)邦貨換算額ハ仮ニ一九〇五年布設当時ノ換算率即チ一馬克ニ付四十八銭二厘二毛ニ依リ換算シタルモ実際ハ平和条約第二百九十六条第三項(二)号ノ規定ニ鑑ミ戦前ノ為替相場ニ依ルヲ適当ト認ム

(ハ)現在価格ハ海底電線ノ生命ヲ五十年トシ一ケ年ニ其ノ五十分ノ一宛消耗スルモノトシ布設当時ヨリ一九二〇年迄十五ケ年ノ消耗ヲ差引キ算出セリ

六二一　五月二日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道鉱山ニ関スル独国側評価計算ニ関シ報告ノ件

第六六八号　（五月五日接受）

賠実第一四二号賠実第一三四号所報山東鉄道鉱山ニ関スル独逸側評価計算ノ基礎財政部ヲ通ジテ四月二十九日送付アリタルニ付キ内容ノ概略報告ス

計数ハ賠実第一三四号所報ノ通リナルモ同電中ニ収入ヲ基礎トシ価格ヲ算定セルモノ九六、九六五、〇〇〇トアルハ今回ノ文書ニ依レハ九六、五六〇、〇〇〇ノ誤リ

計算ノ方法左ノ通リ

(a)鉄道ニ付キ

㈠建設価格一九〇四年十二月三十一日マデ五二、九〇一、二二六

其ノ後一九一三年十二月三十一日マデ投資額七、〇九七、八二六

其ノ後一九一四年七月二十五日マデ投資額九〇三、五一二

植林費一一四、一〇七

貯蔵品備品一、一〇一、三九九

計六二、一一八、〇七四

㈡純益ヲ基礎トセル価格一九〇九年乃至一九三三年ノ利益ノ年平均ヲ年利四分ニテ還元ス其ノ計数左ノ通リ

一九〇九年度　三、五一〇、〇〇〇

一九一〇年度　三、九一五、〇〇〇

一九一一年度　三、五一〇、〇〇〇

一九一二年度　四、七二五、〇〇〇

一九一三年度　三、六五二、〇〇〇

計　一九、三一二、〇〇〇

右金額ノ五分ノ二五即チ九六、五六〇、〇〇〇

建設価格ハ鉄道ノ真正ノ価格ト認ムルヲ得ズ又純益ヲ基礎トセル計算ハ洪水擾乱等将来純益ヲ減少セシムベキ原因及近キ将来ニ要スベキ莫大ノ改良費ヲ考量スルトキハ其ノ儘之ヲ採用シ得ザルガ故ニ両者ヲ平均シ七九、〇〇〇、〇〇〇ヲ以テ適当ノ価格トスベシ

㈢本邦鉄道国有法ニ依ル計算ハ之ヲ略ス

(b)鉱山

会社営業報告ニ依レバ石炭坑ニ関スル損失ハ一九〇八年度ニ於テハ四四三、〇〇〇「マルク」一九一一年度ニ於テ一、二三七、〇〇〇ニ昇リ事業ノ成績面白カラズ此ノ損失ハ坊子鉱山ノ不良ナル状況及 Hung-Shang ノ未完成ニ基クモノナリ故ニ従来ノ対照表ハ将来ノ利益見込ヲ基礎(脱)スルコト能ハズ只一九一三年度ニ於ケル成績ヲ参考シ得ルノミ同年度ニ於テモ「ハン・シャン」ノ事業未完成ナルモ其ノ産出額四〇万噸ニ達シ一噸当リノ純益一「マルク」四五七ニ当ル将来生産額増加スベキモ生産費ノ増加ニ依リ一噸当リ純益ハ減少スベシ故ニ将来ノ純益ヲ一馬克三トシ一年ノ平均生産額ヲ五五〇、〇〇〇噸鉱山ノ生命ヲ五十年ト仮定シ Hung-Shang ヲ八、四二二、二四八馬克

其ノ他ヲ一、〇〇〇、〇〇〇

計九、四二二、二四八馬克ト定ム

金嶺鎮鉄鉱ニ付テハ鉄道会社技師ノ計算ニ依リ一年採掘高ヲ二〇〇、〇〇〇噸埋蔵高一一、五〇〇、〇〇〇噸ノ利益歩合ヲ十「パーセント」トシ一九一四年七月二十五日ノ価格ヲ一、九九一、〇〇〇馬克即チ二、〇〇〇、〇〇〇ト定ム

英独ヘ郵送セリ

六二二　五月二日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

賠償委員会ニ対シ山東鉄道鉱山ノ価格仮記入申入ノ件

第六六九号　（五月四日接受）

賠実第一四三号

四月三十日附ヲ以テ賠償委員会ニ対シ山東鉄道鉱山ノ価格ヲ二三、〇〇〇、〇〇〇円（二千三百万円）トシ左記ノ趣旨ヲ以テ仮記入ノ申出ヲナシタリ

議定書第二項ニ依リ独逸ガ山東鉄道及鉱山ニ付独逸国民ノ有スルコトアルベキ利益ノ価格ヲ独逸ノ貸方ニ記入スル為ニハ次ノ三条件ヲ具フルコトヲ要ス

㈠鉄道鉱山ニ対スル独逸国民ノ利益ノ存在ヲ証明スルコト

㈡独逸国民ノ利益ニ関スル相当ノ見積ヲ提出スルコト

㈢右金額ヲ国民ニ対シ補償シタル証明ヲ与フルコト

㈠ニ付独逸ハ既ニ利益ノ存在証明ヲ目的トスル書類ヲ提出シタルヲ以テ之ヲ政府ニ通告シタルモ未ダ確答ヲ得ズ而シテ日本委員ハ右独逸ノ証明ニ付大ナル疑問ヲ有ス

㈡ニ付テハ独逸ハ九千万金貨馬克ノ概数ヲ提出シタルモ之ガ詳細ニ付テハ昨日文書ヲ接受シタルノミナルヲ以テ勿論充分ナル調査ノ余地ナシ

㈢ニ付テハ独逸ハ未ダ補償セザルノミナラズ独逸委員ハ何時補償スベキヤモ不明ナル旨ヲ述ベタリ

右ノ次第ナルヲ以テ何レノ条件モ具備セズ故ニ日本政府ニ独逸国民ノ利益ニ相当スル金額ヲ其借方ニ記入スルコトニ同意スルノ義務ナキモ此機ニ際シ賠償事業ガ円満ニ進行スベキコトヲ重大視シ之ニ貢献センガ為ニ順序ニ依ラザル手

段ヲモ執ルベシ

日本政府ハ仮ニ定メタル金額ヲ独逸ノ貸方ニ記入スルコトニ異議ナシ但シ日本ノ義務ハ独逸国民ノ利益ノ存在カ確定的ニ証明セラレ且ツ補償ガ行ハレタル後ニ完成スベキ明カナル了解アルヲ要ス又日本委員ハ此金額ヲ仮ニ二千三百万円概数ニテ四千六百万金貨馬克ト計算ス

此計算ヲナスニ当リテハ其引渡前ニ加ヘラレタル独逸ノ損害及日本政府ノ支出シタル修繕及維持費ヲモ考慮シタリ

在英独大使ヘ郵送セリ

六二三　五月五日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

独国提出ノ山東鉄道及鉱山私有立証ニ対スル我方ノ反駁書ノ真意説示ノ件

第四二七号

貴電第六二七号（賠実一三六）ニ関シ此際反駁書ヲ提出スルトキハ問題ヲ公私有認定ニ逆転セシメ委員会ノ感情ヲ害シ審査ヲ五月一日以後ニ延引セシムヘシトノ懸念ヲ有セラルルカ如キモ元来山東鉄道ニ関シテハ余リ事情ニ通ゼザル

賠償委員会ニ独逸ノ陳述ノミヲ通知シ我方従来ノ主張即チ独逸対案回答書中公有推定ノ主張ノ基ク所ヲ知ラシメザルハ不得策ナリ従テ反駁書ノ趣旨ハ一応右我方従来ノ主張タル公的性質ヲ有ストノ認定ノ理由ヲ明ニシ独逸ノ陳述ハ右ノ認定ヲ覆スニ足ラザルモ右ハ姑ク別問題トシ該陳述ハ附属議定書二項ノ所謂独逸国民ノ利益ノ存在ヲ立証セントスルモノトシテハ相当理由アルモノト認ムトノ趣旨ニテ寧ロ公私有論ニ触レズトモ解決ノ途アルコトヲ仄メカシ前記独逸国民ノ利益ヲ株主ノ利益ト解セズ会社ノ利益ト解シ之ヲ基礎トシテ今後独逸ヨリノ具体的提議ヲ俟テ独逸ノ貸方ニ記入スヘキ金額ノ商量ヲ躊躇セザルベク即チ之ニ依テ独逸国民ノ有スル利益補償ノ問題促進ヲ期セムトセルモノナリ

故ニ此際右ノ趣旨ヲ賠償委員会ニモ独逸側ニモ通ジ置キ公私有ノ根本論ハ姑ク之ヲ差置クモ之ニ依リテ評価ノ際ニ於ケル我立場ヲ良好ナラシメ置クコト貴電第六一九号ノ如ク独逸側ノ評価無法ニ高価ナルニ鑑ミルモ得策ナリト思考ス

就テハ貴電末段ノ措置ヲ執ラレ差支ナキモ右反駁文作成ノ趣旨御含ノ上適当ノ機会ニ之ヲ利用セラレタシ

在英独大使ヘ転電アリタシ

六二四　五月五日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

山東鉄道及鉱山ノ財産価格ニ関スル独国側対案ニ考慮ヲ加フルニ吝ナラザル件

別電　同日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電報第四三一号

山東鉄道鉱山ノ財産価格ニ関スル計数内訳

第四三〇号

貴電第六五八号（賠実一四〇）ニ関シ往電第四〇〇号㈡ノ内訳別電第四三一号ノ通ナリ右ハ我関係当局ニ於テ其ノ専門的見地ヨリ厳密ナル審査ノ結果評価セルモノニシテ従テ右以外御来示ノ如キ最高見込額ナルモノヲ予定セズト雖独逸側ノ対案ニシテ的確ナル証憑ニ基クモノナルニ於テハ我方ニテモ更ニ公正ノ見地ヨリ考慮ヲ加フルニ吝ナラザル所存ニ付右ノ御含ヲ以テ可然御措置アリタシ尚ホ貴電第六一九号（賠実一三四）ニ関スル当方ノ所見ハ別ニ後電ヲ以テ申進ズヘシ

（別電）

五月五日内田外務大臣発在仏国石井大使宛電報第四三一号

山東鉄道及鉱山ノ財産価格ニ関スル計数内訳

第四三一号

㈠鉄道

軌道八、〇九一、六九六円、橋梁六、六七六、三二一、輪転材料一、九六二、一七三、土工一、五七二、二九二、建物一、二三五、八六五、土地七九二、四四三、停車場設備三二四、〇五五、工場機械其他七一九、七三八、以上計二一、三七四、五八三、戦争及水害ニ因ル減滅額八四五、〇六四、差引計二〇、五二九、五一九

㈡鉱山

溜川炭鉱区五五二、六七一円、（坊子炭鉱区ハ占領当時廃鉱ニ皈シ無価値ト認メ計上セズ）、金嶺鎮鉄鉱区九一、〇二八、溜川鉱山設備一、六九三、二〇五、坊子鉱山設備二八六、〇四三、溜川土地建物其他四五二、一三三、坊子土地建物其他八五、一二一、金嶺鎮土地建物其他八、七三五、在青島土地建物其他七一、二〇〇、一九一四年一月ヨリ十月十二日占領ニ至ル迄投資見積額一〇七、七三九（内溜川九一、五四〇、金嶺

鎮一六、一九九)、以上通計三、三四七、八六五、一九一四年一月ヨリ十月十二日占領ニ至ル迄原価償却一〇九、八六七、溜川炭鉱損害額三六九、五二七、差引計二、八六八、四七一

六二五　五月十二日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛(電報)

山東鉄道及鉱山ニ関スル賠償委員会法律部ヨリ財政部ヘノ回答要旨報告ノ件

第七一八号　(五月十四日接受)

賠実第一四七号賠実第一三五号所報山東鉄道鉱山ニ関スル財政部ヨリ法律部ニ

法律部ハ質問ノ回答ニ入ルマヘニ第一五六条第一五七条及議定書ノ適用ニ関シ賠償委員会ノ地位ヲ説明センニ議定書ノ適用ニ関スル賠償委員会ノ職能ハ独逸ノ貸方ニ必ズシモ譲渡財産ノ価格ヲ記入スルコトニ非ズシテ譲渡当時ニ存シタル財産ニ対シ国民ニ為シタル補償額其ノ物ヲ記入スルニアルガ故ニ仮ニ独逸ガ其ノ財産価格ノ五〇「パーセント」ヲ補償セリトセバ其ノ金額ヲ記入スレバ足ル(賠実第八九号第四参照)又賠償委員会ハ第一五六条ヲ解釈スルノ権能日本副委員ハ独逸法ニ依レバ鉄道鉱山ハ私人ノ財産ナリトスルモ之ニ対スル独逸国家ノ利益即チ其ノ実現セントスル帝国主義ノ目的ヲ考量スルトキハ其ノ財産ガ尚公的財産タルノ性質ヲ失ハズト主張スルモ法律部ハ私立会社ガ公的ノ企業ヲ経営スルモ其ノ資格ヲ変更スルコトナシト思考ス

c　補償ハ会社ヲ対象トスベキヤ個人ヲ対象トスベキヤニ付テハ日独政府ハ会社ヲ対象トスルコトニ意見一致スルガ如シ而シテ補償ガ会社ニ対シ行ハレタル場合ニハ之会社ガ当該独逸国民タルノ充分ナル証明ナルベシ

d　独逸ガ戦争前ノ財産価格ヲ標準トシテ補償セル場合ニモ独逸ニ貸記シ日本ニ借記スベキ金額ハ日本ニ実際譲渡サレタル財産価格ナリ此ノ上ニハ利益ノ喪失及被害ノ価格ヲ包含セズ若シ戦争ノ損害ニ対スル補償モ日本ニ借記ストセバ戦争ノ責任ヲ日本ニ負ハシムル結果トナル此ノ補償ハ条約上ノ認ムル補償ニ非ズシテ独逸法ニ依ル補償ナリ

本件ニ関シ法律部ハ二回ニ亘リ本邦側ノ意見ヲ聴取シタルガa、c、d、ニ付テハ別段問題ナクb、ニ付テハ仏白評議員ハ審査権賠償委員会ニアリトノ説ナリシモ英国評議員ノ提唱ニ基キ日本政府竝ニ賠償委員会共ニ権限ナク議定書

ナク之ガ解釈ハ日独両国間ノ問題ナルガ故ニ如何ナル財産ガ如何状態ニ依リ譲渡セラルベキヤハ賠償委員会ニ於テ決スベキ限リニ非ズ此ノ前提ヨリ左ノ通リ財政部ノ質問ニ回答ス

a　株券ヲ引渡スベキヤ単ニ財産ヲ引渡スベキヤハ賠償委員会ガ決スベキ問題ニ非ズ而シテ日独政府共ニ会社財産ガ譲渡スルベキモノナルコトニ意見一致セルガ如シ

b　独逸国民ノ利益ノ存否ヲ決スルハ賠償委員会ナリヤ日本政府ナリヤノ問題ニ付テハ講和会議当時独逸ニ対スル聯合国ノ回答アリ之ニ依レバ独逸ハ私人ノ利益ノ存在ヲ証明セザルベカラザルモ其ノ後規定セラレタル議定書ハ私人ノ利益ニ対シテ独逸国民ニ支払フコトアルベキ補償額ヲ貸記スト定メタルガ故ニ其ノ証明ノ問題ハ実際解決セラレタルガ如シ而シテ或ハ之ヲ推定スルコト能ハザルガ故ニ議定書ノ起草者ニ於テハ独逸ガ其ノ国民ニ対シ補償シタルノ事実ハ右証明トシテ法律上充分ナリト思考シタルモノト認ム故ニ法律部ハ悪意ノ証明セラレザル限リ独逸政府ノ保証アリタル事実ハ私人ノ利益ノ存在ニ関スル一応ノ推定トシテ充分ナリト認ム

第二項其自身ニ明定セリトテ「デリケート」ノ問題ヲ避ケ得タレ共独逸ノ補償額ヲ貸記トセルノ結果ハ益独逸(不明)価格ノ交渉ヲ為スノ必要ヲ増セルガ如シ

英独ヘ転電セリ

六二六　五月二十一日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛(電報)

山東鉄道及鉱山ノ評価問題ニ関スル財政部会議ニ於ケル協議要領報告ノ件

第七六三号　(五月二十三日接受)

賠実第一五〇号

一、山東鉄道鉱山ニ関シ貴電第四三二号及第四三〇号別電ニ依リ独逸側評価ニ対スル反駁及本邦評価ノ内訳ヲ賠償委員会財政部ニ提出スルト共ニ貴電第三七七号ニ依ル公私有審査ニ関スル反駁覚書モ独逸側及賠償委員会側ニ通告シ置キタリ尚評価内訳中戦争ニ依ル損害百二十一万円ハ頗ル少額ニ見ユル所之ヲ以テ戦争ノ全損害トスルハ今後ノ交渉上不利ナルベキヲ以テ右提出文書ニハ日本政府ノ実際支出シタル応急処理費トシ戦争ノ全損害ハ算定困難ニシテ或専門

家ノ計算ニ依レバ五百万円ニ達セルモ日本政府ハ実際支出シタル修理費ニ局限スル旨ヲ附言シ置ケリ

二、評価ニ付テハ相当材料整ヒタルヲ以テ十九日財政部会議ニ於テ日独委員立会ノ上協議ス

議長（英国委員）ハ評価問題ニ入ルニ先ダチ本問題ニ対スル賠償委員会ノ地位ヲ説明シ置クヲ必要ナリトシ条約ニ依レバ賠償委員会ハ独逸ガ国民ニ補償シタル金額ヲ確定シ之ヲ貸借対照表ニ記入スレバ足ルモノナルモ予メ関係当事者間ニ協議ヲ纏メ置ク方実行上便宜ナリト考フ而シテ今日迄ノ経過ニ依レバ日独両国間ニ協議ヲ進メ其協議纏ルニ於テハ賠償委員会ハ別段関与セズシテ終ルコトトナルベキモノト信ズ今後モ此手続ニ依リ進行スベキヤト諮リ日独委員ハ異議無キ旨ヲ述ブ議長ハ更ニ(a)会社ハ清算ニ着（脱）政府ハ会社ヲ条約ニ所謂独逸国民ト認ムルニ一致セルモ株主中ニハ瑞西、白耳義、伊国民（恐クハ支那人）モ有リ独逸ハ之等株主ニ付会社ガ独逸人タルト同一ノ取扱ヲ為スノ保障ヲ与ヘ得ルカト問ヒ独逸委員ハ独逸ノ商法ニ依レバ清算手続ハ公ニセラレザル可ラズ之公平ナル取扱ニ対スル充分ナル保障タルベシト答フ次デ評価ノ問題ニ入リタルモ独逸専門家未到着ノ故ヲ以テ細目ニ付テハ二十七日開カルベキ日独協議会ノ経過ヲ俟ツコトトシ大体ノ応答ヲ為ス議長ハ鉄道ニ付テハ日独計算（独逸ノ数字ハ建設価格ノ分ニ依ル）ニ付大差ナキモ只運転材料ニ付大ナル差アリ日本ノ数字ハ約三百九十万馬克ニシテ独逸ノ数字ハ約千万馬克ナリトテ日本ノ計算詳細ヲ提出シテハ如何ト云ヒ独委員ハ日独専門家間ニ鉄道ノ価格ニ付何等カ協定ニ達シ得ベシト信ズ

此ノ価格ニ依リ国民ニ交渉スヘキモ賠償勘定ニ記入スヘキ金額ハ別ニ考慮スルモノナルヘシト述ブ米国評議員ハ日本ノ評価ハ単ニ財産価格ヲ測定セルカ如キモ之ヲ企業トシテ評価スルコト能ハスヤト問ヒ関場委員ハ従来ノ日本ノ見解ヲ述ベ本件ハ鉄道ヲ買収セムトスルモノニ非ズ故ニ評価ノ方法モ市価ニ依ルヘキモノニ非サルヲ説明ス更ニ米国評議員ハ独委員カ日本国有法ニ依ル計算ハ相当ノ価格ヲ代表セリト謂ヘルヲ難シ同法ハ政治的ニ国民ノ感情ヲ満足スル価格ヲ採用スベキモノニ非ズト述フ財政部大体ノ意嚮ハ建設価格ヲ標準トスルヲ適当ト認ムルカ如シ最後ニ議長ハ鉄道ニ付テハ日本ノ評価ヲ基礎トシ之ニ二十「プロセント」ノ増加ヲ為シタル位ニテ協議成立セサルヤト提唱シ関場ハ右ニ付テハ何等考ヘタルコト無ク又日本政府ノ意嚮ヲ確メサルモ本委員トシテハ評議員諸氏ノ希望セラルル（脱）鉱山ノ評価ニ入ル議長ハ両国ノ数字ノ間ニ大差アリ又評価方法模糊ナル旨ヲ述ヘタルニ関場ハ鉱山其ノモノノ価値ヲ標準トスル独逸ノ評価方法ノ不可ナルハ既ニ日本ノ提出シタル反駁書ニ明ナリ且独逸ノ時代ト異リ特ニ鉱山ニ付政治的其ノ他理由ニ依リ之ヲ重要視スル必要無ク又鉱山ニ付テハ日本専門家ハ独逸専門家ノ計算ノ如ク有利ナリト認メスト述ベタルニ議長ハ鉄鉱採掘ノ為ニ会社ハ増資セル位ナル故ニ相当有望ナルヘシトテ独逸委員ニ対シ会社ノ見込ヲ提出セムコトヲ求ム而シテ議長ノ意嚮ハ鉄道ニ付日本ノ標準ヲ基礎トセルニ対シ鉱山ニ付テハ独逸ノ計算方法ヲ標準トシ以テ協調ノ進捗ニ資セムトスルニ在ルカ如ク独逸ノ計算ニ相当ノ減額ヲ見込ミ財産ノ評価ハ受領国ノ評価ニ対シ約二割増見当ニテ折合ヘル実情ナリトテ日独交渉会議ノ目標ヲ暗示シ日程双方ノ円満ナル解決ヲ希望シテ散会セリ

三、賠償委員会側ニ於テ六千万金貨馬克ヲ見当トセムトスルコト稍々明白トナリタリ

我方ニ於テハ我提案ノ主張ニ努ムルコト勿論ナルカ賠償委員会ニ於ケル他ノ譲渡財産評価ノ実情ト財政部ノ意嚮ニ顧ミル時ハ此ノ際協議ヲ纏ムル為ニハ我評価ニ多少ノ増額ヲ為ササルヲ得サルヘシト思惟ス幸財政部ノ意嚮ハ曩ニ御訓電ノ範囲内ナルヲ以テ右金額ヲ折衝ノ限度トシ此ノ際独逸側承諾ノ見込存スルニ於テハ三当事者間ニ協調ヲ遂ケ若シ独逸側承諾セサルニ於テハ財政部ト交渉ノ上貸借対照表ニ仮記帳シ置クヲ得策ト信スル処右方針ニテ交渉ヲ進メ差支無キヤ貸借対照表作製ヲ急キ居ル現状ニ鑑ミ二十七日迄ニ御回訓アリタシ

在独大使ヘ転電シ在英大使ヘ郵送セリ

六二七　五月二十四日　内田外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

鉱山評価方法ニ関シ日本側ノ計算方式ヲ容レシムル様努力方訓令ノ件

第四八三号

貴電第七六三号（賠実第一五〇号）第三ニ関シテハ貴見ノ通取計ハレ異存ナキモ貴電第二ニ依レハ財政部議長ハ鉱山ニ付テハ独逸ノ計算ヲ標準トセムトスル意嚮ナルヤノ趣ノ

処貴電賠実第一四二号独逸ノ鉱山評価方法ハ埋蔵量ヲ見積リ之ニ対スル利益歩合ヲ計算スル等採掘免許ノ将来ニ有効ナルコトヲ前提トスルモノナル処曩ニ往電第四三二号ヲ以テ申進タル通右免許ノ如キハ元来独逸国家ノ有セル権利ノ行使ヲ山東鉄道会社ニ委任セルモノニ過キサルヲ以テ之ヲ国民ノ利益ト看做シ独逸政府ニ於テ之ニ補償ヲ与フルノ必要ヲ認ムル能ハス従テ之ヲ前提トスル右独逸ノ計算方法ハ我方ノ到底承認スルヲ得サル処ナルニ付飽ク迄我方ノ評価ヲ固執スル次第ニハアラサルモ其評価標準ハ鉱山ニ就テモ亦我方ノ主張ヲ容レシムル様御尽力アリタシ為念

在英独各大使ヘ転電アリタシ

六二八　五月三十日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山ノ評価ニ関シ日独委員ニ財政部米国評議員ヲ交ヘ討議ノ件

第八二一号　（六月一日接受）

賠実第百五十七号

山東鉄道鉱山ノ評価ニ関シ予報ノ如ク二十七日午前午後ニ亘リ日独委員尚独逸側ヨリハ委員ノ外鉄道及鉱山ニ関スル専門家四名列席商議ス財政部ヨリハ米国評議員 Colonel Hess 技術専門家タルノ故ヲ以テ参加ス同氏ハ評価ノ標準トシテ(a)建設費額(b)再建造費額(c)商業価格（利益ヨリ還元セルモノ）(d)各国ノ買収価格（例ヘバ日本固有法ニ依ルモノ）等アリ(d)ハ政治上特別ノ理由ニ依ルモノ故之ヲ採用スル能ハズ(a)(b)ハ日独ノ計算相接近シ又(c)ハ独逸ノ採用セル利率四分ハ低キニ失セル故之ヲ六分トスル時ハ(a)(b)ニ殆ンド相等シ之レ何レノ計算モ精確ナル証拠ナリ而シテ協定ニ達スル為メニ日本ノ計算約四千五百万金貨馬克（戦争ニ依ル損害額利子ヲ差引カザル金額）ニ事務費其他ノ建設ニ要シタル費用ヲ見込ミ五千五百万トシテハ如何ト提議シ更ニ前回問題トナリタル運転材料ニ付テハ御送付ノ材料ニ依リ説明シタル処米国評議員ハ会得シタリ次ニ鉱山ニ付テ同評議員ハ独逸ノ評価方法ヲ基礎トシ之ニ減額ヲ加ヘタル金額ヲ以テ折合ハンコトヲ再ビ勧説シタルヲ以テ関場ハ独逸ノ評価方法ニ付テハ特ニ政府ノ訓令モアリ主義上之ヲ認ムルコト能ハザルコトヲ力説シタル処同評議員ハ法律部及財政部一般ノ意向ニ鑑ミ之ニ賛成シ難キ旨ヲ述ベ評価ノ詳細ニ付独逸専門家ノ説明ニ入リ結局炭鉱ノ採掘量ハ独逸側ハ年六十五万噸ト計算スルモ実績ニ依リ約四十万噸トシ独逸ノ計算方法ニ依ル時ハ五百三十五万金貨馬克トナルニ依リ此辺ニテ折合ハンコトヲ提案シタリ鉄鉱ニ付テハ独逸専門家詳細ニ其ノ有望ナルヲ説明シタルモ本邦側之ヲ反駁シ且埋蔵物価格ヲ計算スルノ不徹底ナル主張ヲ持続シタル結果米国評議員ハ何等価格ノ提案ヲナサズ専門家ノ説ハ之ヲ打切リ今後ハ日独委員間ニ専ラ価格ノ協定ヲナスヲ希望シテ散会ス在米独各大使ヘ転電セリ

六二九　五月三十日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

日本事務所ニ於テ山東鉄道及鉱山ノ評価ニ付独国委員ト重ネテ商議ノ件

第八二二号　（六月一日接受）

賠実第一五八号

二十八日午前日本委員事務所ニ於テ独逸委員ト商議ヲ重ヌ同委員ハ極力自説ヲ主張シタルガ其意向ハ財政部ノ提案タル六千万（六〇、〇〇〇、〇〇〇）金貨馬克ヲ増額シテ折合ハントスルニアリテ右提案ヲ基礎トシ（金貨馬克ニ換算スルタメニハ一九二〇年一月十日ノ相場ニ依リ一円ニ付二馬克一〇三トス）

(a)鉄道ニ付テハ米国評議員ノ提案タル五五、〇〇〇、〇〇〇ニ幾分運転材料ヲ増加センコトヲ提案シタルガ関場ハ運転材料ハ本邦ノ調査正確ニシテ既ニ財政部モ認メ居ル今日譲歩ノ余地ナキノミナラズ同評議員ハ戦争ニ依ル損害修理費ヲ考慮セザルハ明ニ法律部ノ決定ニ反ストテ反テ減額ヲ主張シ彼モ余儀ナク承認ノ風アリ依テ一、七七七、〇〇〇ヲ差引キ五三、二二四、〇〇〇

(b)鉱山ニ付テハ尚鉄鉱ノ価値ヲ主張スルヲ以テ其標準ノ不当ヲ反駁シタルニ結局日本ノ評価額二四三、〇〇〇ヲ認ムル代リニ炭坑ニ付独逸ノ提案九、五〇〇、〇〇〇ヲ認メラレタシト述ベ折衝ノ末米国評議員提案五、三五〇、〇〇〇迄譲歩シ漸ク(a)(b)総計五八、八一七、〇〇〇ニ達シタリ此時独逸委員ハ自己又ハ独逸政府ニ於テ此譲歩ニ同意スル時ハ外部特ニ会社及ビ株主ニ対スル政策上困難ナルニ依リ表面ハ飽迄モ争フ形ヲ取リタシト今後財政部公然ノ会議ニ於テ尚独逸提案ノ主張ニ努ムルモ何等ノ留保ヲ為サザルベキ

ニ付此意ヲ諒セラレタシト告ゲタルヲ以テ関場ハ然ラバ吾人限リトシテ貴方譲歩ノ程度ヲ書面ニテ示シ得ルヤト問ヘルニ当惑ノ風アリ結局財政部書記長ヲ証人トシテ立合ハシメ右ノ趣旨ヲ繰返シタルヲ以テ当方モ大体承諾ヲ与ヘ速ニ財政部本会議ヲ開キテ公然決定スルコトトシタリ而シテ右本会議ニ於テ本邦側モ評価標準ニ対シ必要ノ反駁ヲ為スベキモ只協調ノ精神ヨリ総額ハ之ヲ認ムル旨ヲ述ブル筈尚右金額ヲ我賠償額ト相殺スル時期竝之ヲ貸借対照表ニ記入スル形式等ニ付テハ他ノ例ヲモ調査シタル上追テ電報スベシ英独ヘ転電セリ

六三〇　六月二日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山評価ニ付白国評議員介入ノ件

第八三二号　（六月三日接受）

賠実第一五九号

山東鉄道鉱山評価ニ付テハ賠実第一五八号所報ノ通大体独逸ト協定シ財政部ノ承認ヲ待チツツアル所白国ノ株主中当該会社ハ之ヲ存続セシメ独逸人所有株ノミ日本ヘ移転シ中立国人ノ所有株ハ之ヲ其儘存続セシメント希望スルモノアリテ目下頻ニ運動中ナリ本件ハ以前ヨリ其希望アリタルモ法律部ハ補償ノ対象ヲ決定スルハ賠償委員会ノ権限外トシ独逸ガ会社ヲ対象トシテ補償セバ之会社ガ条約ニ所謂独逸国民タルノ充分ナル証明ナリト決定シタルヲ以テ財政部白国評議員ハ之ヲ大使会議ノ問題トセントノ意見ヲ有シ財政部ノ意見ヲ動カサントシツツアリ之ニ対シ本邦側ハ日独ノ意見ハ既ニ一致セルニ之ヲ再ビ大使会議ノ問題トスルハ徒ニ事態ヲ長引カシムルニ止マリ何等実益ナキヲ説明シ置ケリ而シテ白国副委員ハ本問ハ賠償委員ノ権限外ニシテ詳細承知セザルモ白国政府ハ本問ヲ東京及巴里駐在白国大使ニ訓令ヲ発シテ交渉セシムル意向ナルモ委員トシテハ評価ニ付日独ノ意見一致セル今日補償金額ヨリ株主ガ相当ノ分前ヲ得ラルルニ於テハ之ヲ承認スルヲ得策ト信ズル旨政府ニ進言スル所存ナリト語レリ

依ッテ本使ハ本問ガ大使会議ノ問題トナレル場合ノ準備ヲナスベシ

英独白ヘ転電セリ

六三一　六月三日　内田外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

財政部本会議ニ於ケル補償決定額ニ対シ留保方訓令ノ件

第五二〇号

貴電第八二二号（賠実一五八）ニ関シ補償決定額ニ付テハ廟議決定ノ必要アルニ付財政部本会議ニ於ケル決定額ニ対シテハ一応政府ノ訓令ヲ請フ必要アル旨留保シ置カレ度シ為念

六三二　六月三日　閣議決定

山東鉄道及鉱山ノ補償額ニ関スル方針決定ノ件

山東鉄道及鉱山ノ補償額ニ関スル件

山東鉄道及附属鉱山ハ帝国政府ニ於テ之ヲ公的財産ト認メ巴里平和会議ニ於テ其ノ日本ニ対スル譲渡ヲ主張シタル結果対独平和条約第百五十六条第二項ノ規定ニ拠リ帝国政府ニ於テ之ヲ取得保持スルコトトナレルモ若シ独逸カ同鉄道及鉱山ニ付独逸国民ノ有スルコトアルヘキ利益ヲ立証スルニ於テハ之カ賠償ヲ辞セサル趣旨ヲ以テ平和条約附属議定書第二ノ規定ヲ設クルニ至レリ然ルニ独逸政府ハ本年三月在巴里賠償委員会ヲ通シテ右利益ノ立証ヲ目的トスル陳述書ヲ提出シ来リタルヲ以テ帝国政府ハ慎重査覈ヲ遂ケタル上山東鉄道及鉱山ニ対シ独逸国民ノ利益存在スルコトハ結局否認スヘカラサル事実ナリト認メ右補償額ニ関スル具体的ノ商議ヲ試マシムルコトトシ爾来彼我委員ニ於テ非公式交渉ヲ累ネ来レル処今般大体内協議纒マリ本件補償額ヲ五千九百万金貨馬克（換算率ヲ一円ニ付二、一〇三馬克トス）トスルコトニ談合ヲ遂ケ近ク賠償委員会財政部本会議ニ於テ公式ニ決定ヲ見ルニ至ルヘキ運トナレリ

而シテ本件補償額ハ約三千万円ヲ以テ之カ標準トスヘシトハ講和方針トシテ曩ニ廟議ノ決定ヲ経タル所ナルカ今回財政部本会議ニ於テ決定ヲ見ントスル本件補償額ハ前記予定金額ニ満タサルヲ以テ愈々財政部本会議ニ於テ其ノ確定ヲ見タル暁ハ帝国政府ニ於テ之ニ承認ヲ与フルコトト致度シリ

註　右閣議決定ハ六月十四日外交調査会ニ於テ其儘決定セラレタ

六三三　六月五日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

財政部本会議ニ於ケル補償決定額ニ対スル留保方訓令ニ関シ出先ノ事情諒承方稟請ノ件

第八六二号　（六月十日接受）

賠実第一六五号

貴電第五二〇号ニ関シ本補償額ハ曩ニ御訓電ノ範囲内ニシテ且ツ最近貴電御申越ノ次第モアリ特ニ全財政部会議ニ附セラレ賠実一六三号所報ノ通リ種々ノ経緯ヲ経テ愈々本邦ノ態度ヲ鮮明ナラシムル必要モアリタルヲ以テ本邦副委員ハ確然承認ヲ与ヘタル関係上今更之ニ対シ留保ヲ附スル時機ニ非ザル事情御含ヲ請フ尤モ形式上ノ手続トシテハ本件ハ尚未ダ財政部ノ賠償委員会ニ対スル提案ニシテ同委員会ノ議決ヲ経テ始メテ最終決定トナルモノト御承知置相成度

英独ヘ転電セリ

六三四　六月七日　在独国出淵臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

独国前大蔵大臣デルンブルヒ山東鉄道問題ニ付談話ノ件

第一〇二号　（六月十日接受）

最近幸便ヲ以テ在仏大使ヨリ送附ニ接シタル同大使発第五九五号及同大使宛貴電第二九八号等ニ依リ山東鉄道会社ニ対スル個人的利益ノ保障ト賠償委員会トノ関係ニ対スル大体ノ御方針ヲ承知シタル処過般本官前大蔵大臣「デルンブルヒ」ニ面会ノ際先方ヨリ山東鉄道問題ニ言及シ同鉄道ノ民有タルコト一点ノ疑ナク既ニ関係者ニ於テ証拠書類等ヲ整ヘ居ル趣ヲ語リ日本政府ニ於テ其正当ナル方針ヲ闡明スル為適当ナル保障ヲナスコト至当ナル可シト熱心ニ主張シタルコトアルガ元伯林名誉領事「ヤコブ」モ本官来訪ノ際略々同様ノ説ヲ述ベ山東鉄道ノ株ハ墨西哥弗又ハ馬克トナリ居ルニ付馬克相場下落ノ今日日本政府ニ於テ約三千万円ヲ支払ハバ悉ク決済ヲナシ得ベシトノ意見書（郵送ス）ヲ提出セリ両人トモ独逸財界ノ消息ニ通ズルモノナルニ付御参考迄電報ス

巴里ニ郵送ス

六三五　六月九日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山ノ価格ニ関スル財政部会議ノ論議報告ノ件

別電　同日石井大使発内田外務大臣宛電報第八六一号　山東鉄道及鉱山評価価格ヲ財政部決定ノ件

第八六〇号　（六月十一日接受）

賠実第一六三

一、日独委員間ニ協定セラレタル山東鉄道鉱山ノ価格ニ就キ二日午前財政部会議開カル

議長（白国評議員）ハ先ヅ日独協定ニ立合ヒタル米国評議員ノ意見ヲ求メタルニ同評議員ハ技術的ニ評価スル時ハ五千九百万馬克ハ低キニ失ス自分ハ六千三百万馬克ヲ最低ト信スルモ協定ヲ日独ニ譲リ然モ両者間ニ既ニ成立ヲ見タル（脱）答ヘタリ是ヨリ日独間協定ノ事ニ就キ質問ヲ受ケタリ関場ハ独逸委員ノ態度ニ言及シ又財政部書記長記入トシテ説明シタル結果実質上両者間協定成立ヲ見タル事実ヲ認メタルモ価格ニ就キ議論ヲ生ジ特ニ白国評議員ハ最低額トスル金額以下ニ評価スル事ハ財政部トシテ不可能ナルベシト論ジ頻ニ伊国委員ノ発言ヲ求メタルニ同評議員ハ部長ト同ジク財政部独立ノ権限ヲ主張シ少クモ六千万迄右金額ヲ上シ円満ニ折合フベシト提唱シ日本側ノ再考ヲ求メタリ

関場ハ之ニ対シ日本政府ハ敢テ本鉄道等ヲ買収セントスルモノニ非ズ賠償委員会ノ職能ハ独逸ノ正当ナル補償額ヲ貸記スル限度ニ止マル事条約ノ規定ナルノミナラズ法律部既ニ之ヲ決定セリ嚮ニ財政部モ亦本件ヲ大体日独間ノ問題ナリトシ其交渉纏ラザル場合ニ於テ初テ賠償委員会之ニ関与スベシトノ見解ナリキ日独双方ハ此ノ手続ヲ執リテ協定ニ達シ竝ニ独逸政府自ラ其ノ補償額ノ限度ヲ自認シタル以上財政部ガ其ノ価格ヲ動カサントスルハ全然同意スル事能ハザルノミナラズ斯ル意見ヲ政府ニ取次グ事スラ不可能ナル位置ニアリト述ブ

此ノ間英国評議員ハ絶エズ本邦ヲ支持シツツ同時ニ再考ノ余地ナキヤヲ諮リタルモ本邦側ハ之ニ応ゼズ午後五時（脱）ノ止ム無キニ至レリ

二、右ノ如ク会議ノ形勢良好ナラザルハ主トシテ白国評議員ガ其国株主ノ運動ニ動カサレタルコト明ナレバ（賠実第一九九参照）関場ハ之レニ対シ聯合国又ハ中立国人所有株ヲ其儘存続セシムルコトノ絶対不可能ナル理由ヲ篤ト説明シタルニ此反対ハ必ラズシモ白国委員及副委員ノ意ニ非ザルコトヲ確カムルヲ得タリ又米国評議員ノ語ル処ニ依レバ

白評議員ハ其国人所有株存続説成立セズトスレバセメテ価格ヲ高メ度キ希望ヲ以テ各国ニ交渉シ居ル趣ニシテ英国評議員ハ依テ止ヲ得ズ日独協定額ト財政部評価格（六千万ニ折合ハズトセバ財政部ハ六千参百万ヲ採用スベシ）トテ賠償委員会ニ提出シ其決定ヲ仰ガン破目ニ陥ラントスル情勢ヲ関場ニ語リタルヲ以テ予メ英国委員ニ打合セ置ク必要ヲ感ジ同国評議員ト共ニ之ト会議シタルニ結局同委員ハ日独間ノ協定ヲ尊重スルハ道理アリト結ベルヲ以テ英国評議員ハ極力本邦ヲ支持スルコトトナリタルモ各国間議未ダ纏マラザル為メ午後ノ会議遂ニ延期ト為レリ

三、三日朝白国副委員ハ関場ニ対シ自国株主ノ大部分ガ山東株ノ騰貴ニ乗ジ其持株ヲ売放シタルヲ以テ白国ハ最早ヤ重大ナル利害関係無キニ至リタル趣該政府ノ回答ニ接シタル旨ヲ報ジ併セテ会議中ノ白財政部評議員ニ電報シタル結果直チニ財政部会議ニ附議シ別電ノ如ク日独間ノ協定ヲ承認シ之ヲ賠償委員会本会議ニ提出スルコトニ決セリ

英独ヘ転電セリ

（別　電）

六月九日在仏国石井大使発内田外務大臣宛電報第八六一号

価ニ接近ス依テ財政部ハ賠償委員会ニ対シ本協定ヲ承認シ其協定ニ貸方又ハ借方ノ記入ヲナサンコトヲ提案ス然レトモ賠償委員会ハ第百五十六条及議定書第二項ニ関シ唯独逸国民ニ補償セラレタル金額ヲ独逸ニ貸記スルノ外之等ノ実行ヲ担任スルモノニアラス而シテ右手続ハ第百五十六条ノ解釈問題ヲ含ムカ故ニ賠償委員会ハ此評価ヲ確定的ニ採用スルニ先タチ予メ大使会議ノ同意ヲ得ルヲ適当トスヘシ故ニ財政部ハ右評価手続及会社対象説ノ承認セラルヘキコト及独逸政府ヨリ右評価金額ヲ会社ニ補償シタル通知ニ接シタル後之ヲ日本ニ借記シ独逸ニ貸記スヘキコトノ決定ヲ求ムル書翰ヲ大使会議ニ送付スヘキヤ否ヲモ決定センコトヲ賠償委員会ニ提示ス賠償委員会ハ会社ニ交付セラレタル資金ハ其株主間ニ国籍ヲ問ハズ平等ニ分配セラルヘキ保証ヲ独逸ニ対シ当然要求スヘシ

在英、独大使ヘ転電セリ

六三六　六月十六日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

補償決定額承認方廟議決定ノ件

第五五八号

山東鉄道及鉱山ノ賠償評価価格ヲ財政部決定ノ件

第八六一号　（六月十一日接受）

賠実第一六四号

条約第百五十六条ノ適用ニ関シ財政部ハ日独政府ノ見解及法律部ノ意見ヲ聴キタル上最モ便利トスル評価ノ方法ハ会社財産ヲ全体トシテ評価シ会社ノミヲ当該独逸国民ト看做シ会社ヲシテ国籍ノ如何ヲ問ハス其株主ニ補償セシムルニアリトノ意見ニ一致セリ而シテ最終ノ評価ニ付協定センカ為メニ財政部日独委員及独逸専門家間ニ特別会議ヲ開キ其結果之ヲ五千九百万金貨馬克ト評価シタリ其内訳左ノ通

鉄道　五千三百四十万六千百四十一金貨馬克（五千五百万ヨリ計算ノ便宜上戦争損害ノ一部ヲ差引ク）

炭礦　五百三十五万

鉄鉱　二十四万三千八百五十九

此ノ計数ハ日本委員之ヲ承認シ独逸委員モ非公式ニハ之ヲ承認シタルモ会社ニ対抗スル必要上之ヲ賠償委員会ノ決定シタル評価額トナサンコトヲ希望セリ故ニ日独間ニハ実質上意見ノ一致アリ而シテ本件ニ付テハ評価額ヲ低ク定ムルコトハ日独当事者双方ノ利益ナリト雖其計数ハ財政部ノ評

往電第五二〇号ニ関シ本件補償決定額承認方今般廟議決定セリ

六三七　六月十七日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛

山東鉄道及鉱山ニ関スル独国政府陳述書ニ対スル弁駁覚書送付ノ件

附属書　山東鉄道及鉱山ニ関スル独国政府陳述書ニ対スル弁駁覚書

亜一機密送第一九号

山東鉄道及鉱山ニ関スル独逸政府陳述書ニ対スル弁駁覚書送付ノ件

曩ニ四月二十三日付往電第三七六号ヲ以テ大要及電報置候本件弁駁覚書和英両文別添ノ通茲ニ及送付候条往電第四二七号ノ趣旨御含ノ上可然御取計相成度此段申進候也

本信写送付先　英、独、米各大使

他館ヘハ各一通宛

（附属書）

山東鉄道及鉱山ニ関スル独国政府陳述書ニ対スル弁駁覚書

日本政府ハ山東鉄道及鉱山ノ私的性質ヲ立証セムトスル独

逸政府ノ陳述書ヲ閲悉セリ

査スルニ山東鉄道及鉱山ガ公的性質ヲ有スルモノナルハ既ニ巴里ニ於ケル平和会議ニ於テ公認セラレタル所ナリト雖モ此ノ機ヲ以テ左ニ日本政府ノ所見ヲ敷衍開陳セムトス

抑モ山東鉄道及鉱山ハ前記陳述書記載ノ如ク千八百九十八年三月六日北京ニ於テ調印セラレタル膠州委附ニ関スル条約第二章ニ依リ独逸国家ガ支那政府ヨリ獲得セル鉄道敷設権及鉱山採掘権即一種ノ国際地役権ヲ実行スルガ為ニ存セル経営設備ニシテ右鉄道及鉱山ノ基礎ハ独逸国家ノ国際上ノ権利ニ存セリ而シテ右鉄道ハ独逸国ノ東亜ニ於ケル軍事的政治的根拠地トシテ特ニ支那ヨリ獲得セル青島租借地ヲ基点トシ此ノ租借地ノ所謂背後地（Hinterland）ニシテ独逸国カ条約上独占的利権ヲ設定セル地方（前掲膠州委附条約第三章）ヲ連結スル鉄道ナリ右鉱山モ亦独逸国政府及同鉄道ノ利益ノ為ニ其ノ沿道ニ於テ採掘セラレタルモノナリ且此ノ敷設権及採掘権ハ青島ノ租借権ト同時ニ同一ノ条約ニ依リテ独逸国之ヲ獲得シ此等ノ鉄道及鉱山ノ所在地ガ独逸国ノ独占的勢力範囲タルベキコトモ亦同時ニ之ヲ定メタリ斯ノ如キ鉄道及鉱山ト租借地トノ関係並其ノ権利獲得ノ

由来ヨリ推スニ仮令条約中ニ如何ナル字句ノ使用セラレアルニモセヨ右鉄道及鉱山ノ目的ガ独リ経済的タルニ止マラズ政治的且軍事的ナルコト明白ニシテ千九百年三月二十一日ノ膠済鉄路章程第十七条ハ本鉄道ガ軍事上ノ目的ニ使用セラルルコトアルベキヲ予見セルノミナラズ現ニ這般ノ戦争中独逸国ハ本鉄道ヲ此ノ目的ニ使用セリ由是観之右鉄道及鉱山ハ実際上租借地ト相俟テ独逸国ノ東亜ニ於ケル政治的経営機関ナリシコト明ナリ加之山東鉄道ハ右鉄道及鉱山ニ関シ他ノ私設会社ト異リ独逸国政府ト特殊密接ノ関係ニ立テリ例ヘバ(イ)鉄道及鉱山共ニ租借地ノ一般行政費ニ充ツルカ為ニ毎年一定ノ貢金ヲ政府ニ納ムルノ義務アリ（山東鉄道敷設及営業免許第十一条及支那山東省ニ於ケル鉱山採掘免許第八条）(ロ)鉱山ハ特ニ独逸海軍ニ第一ニ且特別廉価ニ採鉱供給ノ義務ヲ負ヒ（前掲鉱山採掘免許第七条）(ハ)重要ナル役員ノ選任ハ特ニ政府ノ認可ヲ要シ（山東鉄道敷設及営業免許第三条）(ニ)政府ガ山東鉄道ノ買上権ヲ留保セルコト（同免許第十二条）等ヨリ観レハ本鉄道カ独逸国家ノ利益ノ為ニ経営セラレ実質上国家機関ト同一地位ニ在リシモノト謂フベシ

要スルニ本鉄道及鉱山ハ上述ノ存立ノ基礎、目的其ノ独逸国政府トノ関係ヨリ見レバ独逸国家ノ租借権及国際地役権ヲ実行スル施設経営ニシテ独逸国政府ハ之ヲ其ノ実権ノ下ニ置キ支那領土上ニ於テ政治上経済上特別ノ地位ヲ占メタルモノナリ従テ此ノ鉄道及鉱山ノ事業ハ国家的事業ニ属シ純然タル私的企業ト看做スコト能ハザルナリ翻テ前記独逸政府ノ陳述書ハ畢竟山東鉄道及鉱山ヲ公財産ト認ムルノ不当ナル理由トシテ第一ニ前掲膠州委附条約第二章ノ規定ヲ引用シ此等ノ条項ヲ按スルニ両締約国ハ該鉄道及鉱山ニ関シ私有権ヲ設定セムトノ意思ヲ有セシニ過ギズ又該条約実施ニ方リテモ独逸政府ハ依然此方針ヲ恪守セリト為シ現ニ山東鉄道会社及山東鉱山会社ハ私人ノミニ依リ設立セラレタル株式会社タルニ過ギズト論ジ第二ニ該鉄道及鉱山ニ関スル権利ヲ獲得セル形式ヲ説明シ独逸政府ハ右権利ニ基キ該鉄道敷設及営業免許並鉱山採掘免許ヲ私設会社ニ附与シ独逸政府ハ自ラ資本ヲ投ジテ該企業ニ参加セルモノニアラズト論ジ進ンデ此等ノ企業ニ対スル独逸政府ノ法律上ノ地位ヲ説明シ第三ニ独逸政府ハ山東鉄道及鉱山ニ対シ大別シテ監督権、貢金賦課権、買上権ノ三種ノ権利ヲ有セルニ止マリ山東鉄道会社ノ資産ニ対シテハ何等ノ持分ヲ有セズト論断スルモノニシテ要スルニ独逸政府ノ主張ハ独逸国民ガ山東鉄道及鉱山ニ対シ私有権ヲ有スルコトヲ論述セムトスルモノニ過ギズシテ日本政府ガ該財産ヲ以テ公的財産ト認メタル論拠ニ対シテハ何等触ルル処ナキノミナラズ却テ之ヲ裏書スルモノナキニ非ズ惟フニ独逸政府ハ単ニ財産権ノ所在如何ニ依リ公私財産ヲ区別スル唯一ノ標準ト看做スカ如キモ国際法上所謂私有財産ノ尊重トハ私人カ特ニ国家ノ生活ニ関係ナク所有スルモノヲ尊重セムトスルニアリ仮令私人ノ保有セル財産ト雖モ国家ト特別ノ関係ニ立チ政治的並ニ軍事的ノ目的ヲ有スルモノニ対シテハ必ズシモ私有財産尊重ノ原則ヲ適用スベキ限ニアラズ然リ而シテ山東鉄道及鉱山ハ上述ノ如ク独逸国家ト特別ノ関係ニ立テル財産ニシテ日本政府ガ之ヲ公的財産ト認ムルニ至レルモ正ニ此関係ニ基ケルモノナルガ故ニ右認定ハ私人ガ之ヲ保有シ独逸国家ガ之ヲ保有セザリシコトノ証明ノミヲ以テ之ヲ覆シ得ベキモノニアラズサレバ右独逸政府ノ論駁ニ拘ラズ日本政府ハ依然トシテ其ノ主張ヲ更改スベキ何等ノ理由ヲモ発見シ難シト雖モ日本政府ハ該鉄道及鉱山ニ関シ独逸国民ノ有

スルコトアルベキ利益ヲ尊重シ平和条約附属議定書第二項ノ規定ヲ設クルコトヲ甘諾セルヲ以テ独逸政府ニシテ右規定ニ所謂独逸国民ノ利益ノ存在ヲ証明スルニ於テハ日本政府ハ素ヨリ右規定ノ実行ニ躊躇スルモノニアラズ而シテ独逸政府ガ其ノ陳述書ニ於テ山東鉄道及鉱山ノ設備ガ私人ノミニ依リ設立セラレタル山東鉄道会社ニ属スル旨ヲ指摘シタルハ畢竟平和条約附属議定書第二項ニ所謂独逸国民ノ有スル利益ノ存在ヲ立証セムトスルモノナルヲ以テ日本政府ハ之ヲ以テ将来平和条約附属議定書第二項ノ規定実行ノ際ニ於ケル商量ノ基礎タルベキモノト認ムベシ然リト雖独逸貸方ニ計上スベキ補償額ニ至テハ前記山東鉄道会社ノ特別ノ地位ニ鑑ミ当然特殊ノ考量ヲ為スベキモノナリト思考ス

（右英訳文）

Memorandum

The Japanese Government have taken note of the Exposé of the German Government directed to establishing the private character of certain railways and mines in Shantung. That these railways and mines bear a public character was formally recognized at

the Peace Conference of Paris. In view, however, of the contention of the German Government as advanced in the Exposé, the Japanese Government consider it appropriate to set forth their views in this matter.

These railways and mines in Shantung are establishments which came into existence as a result of the enforcement by Germany of her right to construct railways and work mines in Shantung, an international servitude which Germany obtained from the Chinese Government, as stated in the Exposé, by virtue of the provisions of Part II of the Kiao-Tchao Treaty signed in Peking on March 6, 1898. Thus the origin and basis of these railways and mines were international rights acquired by the German Empire. As for the railways, they have as a terminus the Tsingtao Leasehold which Germany acquired from China for the specific purpose of making it the base of her military and political activities in

eastern Asia, and they connect it with a territory which forms the hinterland of the Leasehold and over which Germany created exclusive rights and interests under treaty stipulations (Part III of the Kiao-Tchao Treaty). The mines, too, were established along the railways and were worked in the interest of the German Government as well as in that of the railways. Moreover, these railway and mining rights and the leasehold of Tsingtao were acquired by Germany simultaneously and by the same treaty, and also at the same time the district within which these railways and mines exist was stipulated for as belonging to Germany's exclusive sphere of interest. Such close connection between the Tsingtao Leasehold and the railways and mines in Shantung and the circumstances acttending the acquisition by Germany of these several rights make it clear, in spite of anything that the phraseology of the Kiao-Tchao Treaty might seem to indicate, that the object of these rail-

ways and mines was not merely economic but political and military. Not only was it anticipated, in Art. 17 of the Kiao-Tchao Railway Contract of March 21, 1900, that these railways might be used for military purposes, but they were actually so used by Germany during the recent war. From these facts, it is indisputable that the railways and mines in Shantung, together with the Tsingtao Leasehold, served as a means of furthering the political activities of Germany in the Far East.

Furthermore, the Shantung Railway Company differed from an ordinary private corporation in that it stood in a special and close relationship with the German Government in respect of the railways and mines under its management. For instance, (1) the railways and mines were bound to make an annual contribution to the general expenditure of the leased territory (The Railway License, Art. XI and the Mining License, Art. VIII); (2) the mines were

bound to supply coals preferentially and at a specially reduced price to the German navy (The Mining License, Art. VIII) ; (3) the election of the principal officials was subjected to the approval of the German Government (The Railway License, Art. III) ; and (4) the German Government reserved for itself a right of repurchase (The Railway License, Art. XII). It is clear from these facts that the Shantung Railway was worked with a view to the interests of the German Government and that it was in substance on the footing of an administrative organ of the state.

To sum up, these railways and mines must, from the origin and basis of their existence, the object for which they were established, and the relationship between them and the German Government, be regarded as enterprises undertaken in order to execute the leasehold and international servitude which the German Empire possessed in Shantung. They were placed under the control of the German Government which, largely through the instrumentality of these establishments succeeded in creating a special political and economic position or Germany within a certain sphere of the Chinese territory. These railways and mines are therefore government undertakings which must be distinguished from purely private enterprises.

As reasons why the railways and mines in Shantung should not be regarded as the state property of Germany, the German Exposé quotes, in the first place, the provisions of Part II of the Kiao-Tchao Treaty to show that the Contracting Parties intended nothing more than to create a private ownership with regard to the railways and mines.

It is further stated in this connection that Germany adhered to this principle in putting into effect her treaty rights so that both the Shantung Railway Company and the Shantung Mining Company came into being as joint stock companies established exclusively by private individuals. In the second place, the Exposé describes the manner in which the railway and mining rights were acquired by the German Government and explains how, on the strength of those rights, the latter granted railway and mining licenses to private companies without themselves participating in these undertakings by any subscription of capital ; and it proceeds in this respect to dwell on the legal position of the German government towards these undertakings. In the third place, it is explained that the German Government had, over the railways and mines, only the right of control, the right to impose contributions, and the right of repurchase and that they had no share at all in the funds of the Shantung Railway Company.

These contentions of the German Government show merely the fact that German individuals have private ownership on the railways and mines in Shantung, but, instead of refuting the reasons set forth by the Japanese Government for regarding them as of a public character, it rather tends to a certain extent to prove this very argument. It would seem that the German Government consider ownership as the only criterion by which to decide whether certain properties are of a public or private character. But the principle of respecting private property under international law applies only to property owned by private individuals which is without any special relationship with the state. Property which stands in a special relationship to the state and which subscribes political and military purposes, even though the ownership thereof may lie with private individuals, is not necessarily protected as being private property. The railways and mines in Shantung are properties which did stand in such relationship with Germany, and it is for this reason that Japanese Government regard them as public properties. In

order to defeat this argument, therefore, it is not enough merely to prove that these properties were owned, not by the German Government, but by private individuals. Accordingly the Japanese Government, in spite of the contention of the German Government, see no reason to alter their position.

In view of the interests, however, which German subjects might possess in regard to the railways and mines, the Japanese Government willingly agreed to the provisions of Paragraph 2 of the Protocol annexed to the Peace Treaty. If, therefore, the German Government should prove the existence of the interests of the German subjects as prescribed in the Protocol, the Japanese Government would show no hesitation in acting upon those provisions. And it would seem that after all the German Exposé only has in view the proving of the existence of such interests when it points out that the railway and mining establishments in Shantung belonged to the

Shantung Railway Company which is said to have been organized exclusively by private individuals.

The Japanese Government are therefore ready to acknowledge that the statement contained in the Exposé ought to form the basis of consideration in their execution of the provisions of the Protocol. In the determination, however, of the amount of compensation to be credited to Germany on this score, it is the view of the Japanese Government that the peculiar position above mentioned of the Shantung Railway Company should naturally be taken into special consideration, "and it is proper to state that the nature of the interests in question and the fact that they are of an essentially private character, ought to be proved by full and unimpeachable evidence. It will of course be clearly understood that the special provisions of the Protocol do not in any way detract from the general principles above laid down regarding the status of private property engaged in enterprises pro-

（欄外註記）

「ベーティー博士意見、末尾追加」

moted by or connected with state activities, the stipulation II of the Protocol being ex gratia merely."

六三八　六月二十九日　在本邦独国大使ヨリ内田外務大臣宛

山東鉄道及鉱山ニ関シ通告越ノ件

附　記　対独平和条約第百五十六条ニ記載セル独逸ノ鉄道及鉱山ノ私的性質ニ関スル陳述書仮訳文

（六月二十九日附在本邦独国大使ソルフ氏ヨリ内田外務大臣宛書翰仮訳文）

平和条約第一五六条第二項ニ「青島済南府間ノ鉄道（其支線ヲ含ミ竝各種ノ附属財産、停車場、工場、固定物件及車輛鉱山鉱業用設備及材料ヲ包含ス）ニ関スル一切ノ独逸ノ権利ハ之ニ附帯スル一切ノ権利及特権ト共ニ日本国之ヲ取得保持ス」トノ規定アリ、此規定ノ履行条件ヲ明確ナラシムルタメ平和条約議定書第二項ニ於テ独逸ガ第一五六条第二項ニ掲クル鉄道及鉱山ニ付独逸国民ノ有スルコトアルベキ利益ニ対スル補償トシテ之ニ支払フベキ金額ハ賠償ノ名義ノ下ニ独逸国ノ負担スル金額ト相殺スル為同国ノ貸方ニ之ヲ記入スト約定セリ

之等利益ノ範囲ヲ決スル為本使ハ本国政府ノ命ニ依リ左ノ通リ貴国政府ニ通告スルノ光栄ヲ有ス（以下省略）

註　省略セル部分ハ左掲ノ附記独逸政府ヨリ賠償委員会ニ提出セラレタル山東鉄道及鉱山ノ私的性質ニ関スル陳述書ト同文ナリ但シ該陳述書ノ冒頭「平和条約ハ其ノ第百五十六条第二項ニ記載セル鉄道及鉱山ヲ独逸国ノ財産ト看做スモ此等事業発展ノ歴史ニ鑑ミルトキハ斯カル見解ハ誤謬ナリ」ノ一節ハ削除セラレタリ

（附　記）

対独平和条約第百五十六条ニ記載セル独逸ノ鉄道及鉱山ノ私的性質ニ関スル陳述書仮訳文

平和条約ハ其ノ第百五十六条第二項ニ記載セル鉄道及ビ鉱山ヲ独逸国ノ財産ト看做スモ此等事業発展ノ歴史ニ鑑ミルトキハ斯カル見解ハ誤謬ナリ

一、鉄道及ビ鉱山ニ関スル独逸ノ権利ニ関スル根本的規定ハ千八百九十八年三月六日ノ膠州湾租借条約第二款ニシテ

其ノ条項左ノ如シ

第一条　清国政府ハ独逸国ニ於ケル左記鉄道ノ敷設ヲ許可ス

一　膠州湾ヨリ濰県、青州、博山、淄川、鄒平ヲ経テ済南及山東省ノ境界ニ至ルモノ

二　膠州湾ヨリ沂州ニ向ヒ更ニ転シテ莱蕪県ヲ経済南府ニ至ルモノ

済南府ヨリ山東省ノ境界ニ至ル線路ハ先ツ済南府ニ至ル線路ノ竣工ヲ俟チテ之ヲ起工シ清国ノ自ラ敷設スヘキ幹線トノ接続ニ便ニスヘシ全企業ニ関シ別ニ定ムル詳細ノ規定中ニハ右後段線路経過ノ地点ヲモ詳定スヘシ

第二条　以上各鉄道ヲ敷設スル為メ一箇又ハ数箇ノ独清鉄道会社ヲ設立シ独逸国及清国商人等ハ株式ノ募集ヲ為シ且双方ヨリ信任スヘキ役員ヲ任命シテ企業ノ管理ニ当ラシムルコトヲ得ヘシ

第三条　詳細ナル事項ヲ規定スル為メ両締約国ハ速ニ別条約ヲ締結スヘシ

右条約ノ締結ハ独清両国之ニ当ルト雖モ其ノ際清国政府ハ前記鉄道ノ敷設及営業ニ関シ右独清鉄道会社ニ対シ有利ナル条件ヲ許与シ以テ総テノ経済問題ニ付キ清国内ノ他ノ場所ニ於ケル他ノ清欧会社ニ比シ不利益ナル地位ニ立タシメサルノ義務アルモノトス本規定ハ専ラ経済事情ニ関スル者ニシテ別ニ何等他ノ意義ヲ有スルコトナシ

前記鉄道ノ敷設ニ際シ山東省内ノ如何ナル土地モ併合若クハ占有セラルルコトナカルヘシ

第四条　前記各鉄道線路ヲ距ル三十清里ノ地帯内特ニ膠州線ニ在リテハ濰県博山ノ地ニ膠、沂、済線ニ在リテハ沂州莱蕪県ノ地ニ於テ独逸カ石炭ノ採掘其ノ他ノ企業竝ニ必要ナル公共的作業ヲ営ムコトヲ許可ス其ノ際独逸国及清国商人ハ其ノ企業ニ対シ共同ニ投資スルコトヲ得鉄道敷設許可ノ場合ト同様鉱山事業ニ関スル規定ハ更ニ協定セラルヘク其ノ際清国政府ハ鉄道ニ関シテ負担シタル義務ヲ守リ独逸国ノ商人及技師ニ対シテ有利ナル条件ヲ許与シ以テ独逸ノ企業者ヲシテ清国内ノ他ノ場所ニ於ケル他ノ清欧会社ニ比シ不利益ナル地位ニ立タシメサル義務アルモノトス、本規定モ亦専ラ経済事項ニ関スルモノニシテ別ニ何等他ノ意義ヲ有スルコトナシ

此等ノ条項ニ依ルニ両締約国ハ鉄道及鉱山ニ関シ私有権ヲ設定セントノ意思ヲ有セシコト明カナリ、此意図ハ右条約締結ニ方リ独逸政府ノ行動ノ基準タリシモノニシテ条約ノ実施モ亦明カニ之ニ拠レリ

千八百九十九年六月一日附独逸帝国宰相ノ布告ハ山東鉄道会社ニ敷設及営業ノ特許ヲ附与セリ今其ノ重要部分ヲ摘記セハ左ノ如シ

第一項　鉄道線路ハ追テ設立セラルヘキ独支会社タル山東鉄道会社ニ依リ建設セラレ且ツ運転セラルヘシ

第二項　該会社ノ株式募集ニ関シテハ独支両国人ヲシテ之ニ応セシムル様充分ノ注意ヲ払フヘシ

右特許ニ基キ千八百九十九年六月十四日山東鉄道会社ハ独逸法律ニ準拠シ一株式会社トシテ私人ノミニ依リ伯林ニ設立セラレ株式五万四千株全部ヲ会社創立者ニ於テ引受ケタリ

鉄道線路敷設ニ関シ千九百年三月二十一日山東鉄道会社ト山東巡撫トノ間ニ締結セル契約（鉄道章程）第一条ハ該会社ノ独支会社ニシテ独支両国人ニ対シ株券ヲ発行スルモノナルコトヲ特筆セリ現ニ其後株券ノ支那人ニ購入セラレタルモノアリ

千八百九十九年六月一日附独逸帝国宰相ノ他ノ一布告ハ千八百九十九年十月十日山東鉱山会社ナル名称ノ下ニ千八百八十八年三月十五日及千八百八十九年七月二日ノ独逸帝国法律ニ拠ル殖民会社トシテ私人ノミニ依リ設立セラレタル一会社ニ山東省ニ於ケル鉱山採掘権ヲ附与セリ

最初ノ株式千二百万馬克ハ全部創立者ニ依リ引受ケラレタリ

山東鉱山会社ハ又千九百年三月二十一日山東巡撫ト企業経営ニ関シ一契約ヲ締結セルカ右ハ該会社カ独支会社ニシテ独支両国人ニ対シ株券ヲ発行スルモノナルコトヲ特筆セリ

千九百十三年二月五日山東鉄道会社ト山東鉱山会社トノ間ニ締結セル一契約ニ依リ後者ハ前者ニ其ノ資産全部ヲ譲与セリ右鉱業会社ト合併ノ結果該鉄道会社ノ定

款ハ千九百十三年二月十二日修正セラレタルモ右修正ハ会社ノ法律上ノ性質ニハ何等ノ影響ナク而シテ右修正ヲ経タル定款ハ爾来引続キ効力ヲ有ス

二、膠州湾租借条約ハ鉄道線路ノ建設及鉱山採掘ノ特許ヲ独支私設会社ニ附与スルノ権利ヲ独逸政府ニ与ヘタルノミナラス右特許ヲ附与スルノ義務ヲモ負担セシメタリ

支那カ独逸ノ会社ニ対シ直接ニ特許ヲ与ヘス先ツ之ヲ独逸帝国ニ附与セルハ当時支那ニ於ケル外国人ニ対スル特許附与ニ関スル一般慣行ニ従ヒタルモノナリ膠州湾租借条約ノ趣旨ニ遵ヒ独逸政府ハ右特許ヲ一私設会社ニ附与セリ而シテ独逸政府ハ之ニ資本ヲ投シテ該企業ニ参与セルモノニアラス

千八百九十九年六月一日ノ「敷設及営業特許」ハ山東鉄道ノ敷設及営業ニ関シ独逸政府ノ権利ヲ左ノ如ク規定セリ

(一)　支配権

取締役会長及最高営業主宰者ノ選任ハ政府ノ認可ヲ要ス（三条）

保護領内外ニ於ケル線路ノ敷設ハ保護領ノ利害関係ヲ充分考慮ニ容レシムル為青島及北京ニ於ケル独逸官憲ノ認可ヲ要ストセリ（四条）

発著時刻表モ認可ヲ要ス

旅客及貨物ノ賃率表ニ関シテハ政府ハ時々其ノ最高率ヲ定ムルコトヲ得（五条）

会社カ法律ニ違反セル場合ニ於テノミ政府ハ仲裁裁判所ノ判決ニ依リ右敷設及営業ヲ第三者ニ譲渡セシメ又ハ自ラ之ヲ経営スルノ権利ヲ留保ス（六条）

(二)義務

青島ノ為メニスル帝国ノ出費ニ対スル負担トシテ会社ハ其ノ純益ヨリ毎年一定ノ上納金ヲ納ムルノ義務ヲ有ス（十一条）

(三)買収権

帝国ハ特許附与後六十年ヲ経過セル後ハ最近過去五年間ノ平均配当金ノ二十五倍ノ賠償若クハ現在ノ設備ノ企業価格ニ対スル賠償ヲ支払ヒ之ヲ買収スル権利ヲ留保ス（十二条）

独逸政府ハ千九百年三月三十一日同会社ト支那政府トノ間ニ締結セル鉄道条例ヲ批准セル為実際上ニハ右買収権ヲ抛棄セルコトトナレリ何トナレハ右条例第二十八条ハ支那政府ノ為右買収権ヲ留保スルモノナレハナリ右ニ関シテハ尚特許状ノ第九条ヲ参照セラレタク之ニ依レハ会社ハ線路ノ敷設ニ要スル地所ヲ獲得スル為ニハ帝国ノ所有ニ係ル保護領内ニ於テモ之ニ対シ代価ヲ支払ハサルヘカラス是レ亦該企業ノ私的性質ヲ有スル一証左タリ千八百九十九年六月一日ノ鉱山採掘特許状モ亦同様山東鉱山会社ノ鉱山事業ニ関スル独逸政府ノ法律上ノ地位ヲ規定セリ右特許状ニ依レハ帝国政府ハ

(一)鉱山試掘及採掘ノ権利ヲ附与若クハ取消スノ権利

(二)帝国海軍ノ需要ニ対シ格外ノ代価ヲ以テ石炭ノ供給ヲ要求スル権利

(三)保護領財政ノ為メ純益ニ対スル一定ノ上納金ヲ納付セシムルノ権利ヲ有セリ

三、前項ニ於テ説明セル所ニ依リ独逸ハ山東鉄道及其経営セル鉱山ニ関シ平和条約締結当時尚其ノ手ニアリタル権利、請求権及特権ヲ抛棄スルコトヲ得ヘカリシノミ即チ

(一)　或種ノ支配権

(二)　純益ヨリノ貢金賦課権

(三)　支那カ買収権ヲ放棄セル場合ニ於ケル鉄道線路ノ買収権

山東鉄道会社ノ全資産即チ青島済南間ノ鉄道及其支線竝ニ停車場、倉庫、輪転材料、事務所設備、鉱山、工場器械等総テノ設備ニ関シテハ独逸帝国ハ何等持分ヲ有セス従テ独逸帝国ハ前所有者タル山東鉄道会社ニ充分ノ賠償ヲ与フルコトナクシテ苟モ出費ヲ要セル其資産ヲ処分スルノ地位ニアラス以上ノ外該会社ノ法律上ノ地位ハ在東京米国大使館ノ媒介ニヨリ千九百十四年十二月日本政府ニ提出セル「山東鉄道会社ノ請求ニ関スル陳述書」中ニ詳細ニ説明セラレタリ

六三九　七月二十六日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山価格記帳ニ付賠償委員会会議ニ於テ決定ノ件

第五三〇号　（七月二十七日接受）

賠実第三〇三号
山東鉄道鉱山価格記帳ニ付貴電第三三一号ノ趣旨ニ依リ財政部ニ交渉シ其同意ヲ得置キタル処七月二十五日賠償委員会ノ会議ニ於テ左ノ通決定シタリ
賠償委員会帳簿ニ於テ五千九百万金貨馬克ヲ直ニ独逸ニ貸記シ日本ニ借記スベシ
若シ後ニ至リテ独逸ノ山東会社ニ対スル補償ノ不足ナルニ基因シテ独逸ノ貸記額ヲ減ズト決定スルトキハ日本ノ貸記額モ亦減ゼラルベシ
英独ヘ転電セリ

六四〇　九月十二日　内田外務大臣ヨリ　在本邦独逸大使宛

平和条約第百五十六条ニ記載セル独国ノ鉄道及鉱山ニ関スル通告ニ対シ回答ノ件

亜一普通第九五号
以書翰致啓上候陳者六月二十九日附貴翰ヲ以テ「ヴェルサイユ」平和条約第百五十六条第二項ニ関連シ設ケラレタル議定書二ノ規定ニ所謂独逸国民ノ利益ノ範囲ヲ闡明スル為山東鉄道及鉱山ニ対スル山東鉄道会社及貴国政府ノ関係ニ付縷々御説明ノ趣閲悉致候
右ハ要スルニ山東鉄道会社ガ山東鉄道及鉱山ニ付利益ヲ有スルコトヲ論述セラレタルモノト存候処帝国政府ハ右ニ異存無之ニ付之ヲ以テ右議定書二ノ規定実行ノ際ニ於ケル商量ノ基礎タルベキモノト認ムヘク候但山東鉄道及鉱山ハ其存立ノ基礎、目的並貴国政府トノ関係ニ鑑ミ寧ロ一ノ国家的事業ヲ以テ目スヘク純然タル私的企業ト看做スコト能ハザリシヲ以テ帝国政府ハ国際法上所謂私有財産保護ノ原則ヲ適用スルノ限ニアラザル意味ヲ以テ従来同鉄道及鉱山ヲ公的性質ヲ有スル財産ト認メ来レル処右主張ハ巴里平和会議ノ際一般ノ公認ヲ得タル次第ニ有之候而シテ帝国政府ハ今尚右主張ヲ枉グルヲ得ザルヲ以テ貴国ノ貸方ニ記入スヘキ補償額ノ決定ニ際シテハ右同鉄道及鉱山ノ特別ノ地位ニ鑑ミ当然特殊ノ考量ヲ為スヘキモノト思考致候右回答申進
旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

六四一　九月十六日　在仏国松田臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山ノ評価ハ確定的トナリタル旨報告ノ件

第一四〇九号　（九月十八日接受）
賠実第一九五号
英宛貴電第五〇三号ニ依レハ尚賠償委員会本会議ニテ山東鉄道鉱山ノ評価決定ヲ要スト見ユルモ賠実第一六九号所報賠償委員会決議ハ補償ノ対象ヲ仮ニ会社ト見テ評価シ其ノ評価手続ニ付キテ大使会議ノ賛否ヲ問ヒタルモノニシテ若シ大使会議ガ其ノ手続ヲ承認スルニ於テハ右決議ハ当然確定ノモノト成ル次第ナリ而テ既ニ大使会議ガ此ノ手続ヲ認メタル以上右評価ハ確定的ノモノト成リタルモノニシテ賠償委員会ハ之ヲ独逸政府ニ対シテモ通告済ナリ右為念

六四二　九月二十二日　在仏国松田臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

山東鉄道及鉱山評価ハ六月二十四日ノ賠償委員会ニ上程財政部提案通リ可決ノ件

第一四二二号　（九月二十四日接受）
貴電第八四〇号ニ関シ（賠実一六九号ハ今日迄着電セサルニ付問合ノ件）
賠実第一六九号左ノ通
一、山東鉄道鉱山評価ノ件六月二十四日賠償委員会本会議ニ上程財政部提案通リ可決セリ
二、内容ハ既ニ賠実第一六三号及第一六四号報告ニ付電報セズ同時ニ審議決定シタル本会議宛書簡要領如左
賠償委員会ハ山東鉄道及鉱山ヲ評価スルニ当リ独逸ガ其ノ国民ニ補償シタル金額ヲ同国ニ貸記スル以外ニ第一五六号及議定書第二項ノ適用ニ関与セズ然レドモ財政部ハ日独政府ノ評価額ノ通告ヲ受ケ且両政府トモ「独逸国民」ヲ「山東鉄道会社」ト解スルコトヲ確知シタリ依テ大使会議ガ同意セバ賠償委員会ハ両政府ガ此手続ニ一致スル故会社財産ノ評価ヲナシ独逸政府ガ其金額ヲ保障シタリトノ通告ヲ得テ其額ヲ独逸ニ貸記シ日本ニ借記スベキ事ヲ提議ス尚賠償委員会ハ会社ニ補償セラレタル金額ガ株主間ニ国籍ノ如何ヲ問ハズ公平ニ分配セラルベキ保証ヲ独逸ニ対シ当然要求スベシ
此手続ヲ確定的ニ採用スルニ先ダチ大使会議ニ対シ会社ヲ補償ノ対象トスベキヤ又ハ独逸ニ貸記スベキ額ヲ定ムルニ当リ「独逸国民」ヲ会社ニ非ズシテ其ノ株主社債権

者又ハ他ノ担保権者ノ如キ独逸個人ト解シ従テ日本ハ独逸人ノ株式社債担保等ノミヲ取得スル為メニ独逸人以外ノ各個人ト個別的ニ交渉スルヲ要スルヤニ付意見ヲ求ム

三、本会議ハ賠実第一四一号所報ノ決定ニ基キ本邦票決権ヲ有シ白耳義ハ単ニ陪席委員トシテ列席ス

席上仏国委員ハ株主平等分配ニ関スル独逸政府ノ guarantee ヲ以テ足レリトセズ進ンデハ株主ニ対シ平等分配セラレタル事実ヲ以テ賠償委員会ノ独逸ニ与フベキ credit ノ条件トナサンコトヲ提案シタリ英国委員ハ之ニ対シ独逸国民ヲ会社ナリト解釈スル以上ハ各株主間ノ分配如何ハ国内法若クハ commercial honesty ノ問題タルニ過ギズ之ヲ条件トナスハ条約ノ精神ニアラズト述ベ関場ハ従来ヨリノ交渉ニ徴シ独逸政府代表者ハ株主ノ国籍ニ依リ discriminate スルコトハ断ジテナサザル旨ヲ繰リ返ヘシタルノ事実ヲ附加シタルニ白国陪席委員ハ草案ニ示セル保証ヲ以テ足ルベシト折合ヒ仏国委員ノ条件説ハ成立セザリキ

尚関場ハ草案ノ示セル所ナレ共一層明確ナラシムル為附言ストテ日本ノ貸借対照表ニ借記セラルル場合ハ独逸ガ協定額ヲ限度トシテ実際ニ indemnify シタル後始メテ有効トナル独逸ハ未ダ補償ヲナサザルニ依リ賠償委員会ニ於テ独逸ヲ貸記スルコトアルモ之 provisional and conditional ナリト指摘シ議長ハ同意ノ旨ヲ答ヘタリ右ハ本邦ノ受クベキ将来ノ年賦金割合及 Spa 協定第四条第四項ニ依ル五分ノ利息ヲ課セラルベキモノナリヤ（財政部ニハ課スベシトノ意見アリ）ノ問題ニ関連シ賠償委員会ノ公平ナル研究ヲ求メン趣旨ニ出デタルモノナリ（賠実第一五八号末段参照）

英独ヘ郵報セリ

六四三　十一月十六日　内田外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

賠償委員会ノ旧独逸海底線評価ノ権限ニ対シ留保方及ヤップ三線等ニ関シ訓令ノ件

第九四八号

貴電第一四九九号及第一五二八号ニ関シ

㈠賠償委員会ガ旧独逸海底線評価ノ権限ヲ有スルヤ否ヤハ「ヴェルサイユ」条約規定ノ解釈上疑問ノ余地存スルモ「ヤップ」三線殊ニ「ヤップ」上海線ニ関スル同委員会実物弁済部ノ評価ハ極メテ我ニ有利ナルヲ以テ仮リニ同委員会ノ評価ヲ認メ実物弁済部ノ計算ヲ承認スルモ差支ナキ積ナリ但シ右ハ我方ニ於テ賠償委員会ノ評価権限ヲ決定的ニ承認シタル次第ニアラサルニ付同委員会ニ対シ其ノ旨留保シ置カレタシ

㈡千九百十三年末ニ於ケル独蘭会社ノ資産総額ハ約千九百八十万馬克ナルニ対シ千九百五年以来千九百十四年迄ニ同会社カ独蘭両政府ヨリ受ケタル補助金ハ約二千万馬克ニ上レル筈ニテ資産ノ全部ニ均シキ補助金ヲ受ケタル計算トナルノ事実ニ鑑ミ「ヤップ」三線全部ヲ純然タル私有財産ト認ムルコトガ果シテ公平ナリヤ否ヤハ尚攻究ノ余地ナキニ非ザルモ若シ仮リニ之ヲ私有財産ト認メ帝国政府ノ取得スヘキ海底線ノ価額ヲ賠償計算上我借方ニ計上スルコトトナル場合ニモ我ヨリ現金吐出ノ必要ナキ様賠償委員会ニ交渉シ万一右要求同委員会ノ容ルル所トナラザルニ於テハ少クトモ他日本邦ノ受領スヘキ現金又ハ公債証券ト相殺スルコトトナシ得ル様賠償委員会ニ交渉セラレタシ此ノ点ニ関シテハ往電第九二一号ヲ以テ申進ジタル次第モアリ十分御承知ノコトト思考スルモ我財政状態上現金吐出ハ到底不可能ナルニ付本件権利ハ「ヴェルサイユ」条約ノ実施ト同時ニ独逸ヨリ主要聯盟国ニ移転シタルモノニシテ唯偶々聯合国内部ノ分配問題未決ノ為「スパー」協定第四条ニ依ル貸借一覧表中ニ掲記スル能ハザリシ次第ヲ篤ト説明シ賠償委員会ヲシテ前記我要求ヲ容レシムル様十分御尽力アリタシ尚本項前段「ヤップ」海底線ノ純然タル私有財産タルコトヲ即断シ難キコトニ付テモ賠償委員会ノ注意ヲ喚起シ置カレタシ

㈢和蘭国ガ「ヤップ」海底線ニ関シ法理上如何ナル権利ヲ有スベキヤノ問題ハ姑ク措キ帝国政府ハ兎モ角蘭領印度方面ニ対スル通信連絡ヲ確保スルヲ大局上得策ト認メ昨年「ヤップ」―「メナド」線ノ共同運用方ヲ和蘭政府ニ提議スルニ当リ従来和蘭側ガ「ヤップ」三線ニ対シテ有シタル利益ハ之ヲ尊重スベキコトニ決定セル次第ナリ従テ「ヤップ」―「メナド」線ヲ和蘭ニ譲渡スルコトトナル場合ニハ和蘭ハ「ヤップ」―「メナド」線ニ関スル独逸側ノ利益ヲ対償トシテ他ノ二線ニ関スル其ノ利益全部ヲ抛棄セルモノト看做シ以テ御来示ノ通「ヤップ」三線ニ関スル賠償計算ヲ定メ度キ意嚮ナリ尤モ右評価ハ本件

海底電線処分問題ガ主要聯合国間ニ於テ最終的ニ決定シ且和蘭政府ニ於テ之ニ異議ナキコトヲ前提トスルモノナル旨賠償委員会ニ対シ留保シ置カレタシ尚若シ和蘭側利益ノ見積ガ「ヤップ」―「メナド」線ノ価額ヨリ大ナリトシテ和蘭側ヨリ右計算ニ異議ヲ申立ツルコトアル場合ニハ独逸ヲシテ其ノ差額ヲ和蘭ニ支払ハシメ独逸ノ貸方勘定ニ之ヲ計上スルコトトシタシ（独逸ヲシテ右差額ヲ支払ハシムル根拠トシテハ独逸ガ正当ニ抛棄シ得ヘキ権利以上ノモノヲ抛棄セリト看做スヘキコトヲ主張シ得ヘシ）

(四)附属物件ニ関シテハ電信機、局舎等ノ現状ヲ精査ノ上我利害ヲ決定スルノ必要アルヲ以テ追テ訓令スヘシ

六四四　十一月十九日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

賠償委員会ノ旧独逸海底線評価ノ権限ニ対スル留保其他ニ関シ請訓ノ件

第一六四五号　（十一月二十日接受）

賠実第二一三号

貴電第九四八号ニ関シ

左ノ点御回訓ヲ仰グ

(一)海底電線譲渡ニ関スル規定ガ第八編ニ挿入セラレタル以上第二附属書第十二ノ規定ニ依リ賠償委員会之ガ解決権ヲ有スルコト明ナリ既ニ同委員会ニ其権限ヲ解釈シ（賠実第五五号参照）各国之ヲ争ハザルニ今ニ到リテ票決権モナキ本件ニ関シ本邦ノミ留保ヲ附スルコト如何ニヤ若シ本邦ガ賠償委員会ノ権限ヲ争フトスルモ如何ナル形式ニテ有効ニ之ヲナシ得ルヤ甚ダ迷フ所ナルニ付強テ留保ヲナサントスルニハ如何ナル理由ト形式トヲ以テスベキヤ寧ロ最早賠償委員会ノ計算ガ我ニ有利ナル以上別ニ斯ル権限問題ヲ留保スルノ実益ナキヤニ思考セラル

(二)海底電線価格ニ付テハ現金吐出ヲナサズシテ整理スル様充分努力スベシ且本年五月一日現在ノ対照表モ種々ノ関係上未ダ確定的ニ完成セザルガ故ニ本評価問題ガ最近完了スルニ於テハ之ニ掲記セシムルノ余地アルベシ尚海底電線ニ関シ独逸政府ガ補助ヲ与ヘ居タルノ事実ハ「ヤップ」線ノミニ限ラザルガ如ク之ニ付テハ賠償委員会実物弁償部ニ於テモ既ニ注意シ法律部ニ対シ意見ヲ求メタル処法律部ハ之ニ対シ独逸政府ガ補助ヲ与ヘタル事実ハ私有財産タルノ性質ヲ変更スルモノニアラズト決定セル次第ナリ

(三)和蘭国ノ有スル利益ニ付テ御申越ノ件ハ了承但シ末段若シ和蘭国利益ノ見積リ「ヤップ」―「メナード」線ノ価格ヨリ大ナル時独逸ヲシテ其ノ差額ヲ支払ハシムルコトニ付テハ根拠ナキガ如シ独逸国ハ海底電線又ハ其ノ一部ニ付有スル権利ヲ放棄スルモノナルガ故ニ其ノ放棄範囲ハ法理上其有スル権利ニ止マリ他国ノ権利ヲ放棄シ得ザルハ明ナリ従ヒテ賠償委員会トシテハ独逸ノ放棄シタル権利ノ価格以上ノ価格ヲ独逸ノ貸方ニ計上スルコト不可能ナル可シ御申越ノ如クスルトキハ独逸ヲシテ和蘭ニ補償ヲ為シテ和蘭ノ権利ヲ聯合国側ニ引渡サシムルニ等シク斯カル問題ハ賠償委員会権限外ニシテ実行至難ナルハ明ナリ且ツ聯合国帰属ノ問題ハ賠償委員会ニ本邦ノ票決権ナキ事情ニ鑑ミ総テ同委員会ノ関与セザルコトニ漸ク決議ヲ見タル以上帰属問題ノ後始末ヲ賠償委員会ノ計算ニ願フコト寧ロ不可能ト思考スル故予メ関係国間ニ於テ協議ヲ纏メ置カルル様致シタシ

(四)附属物件ニ関シ特別ノ主張ヲ為スヲ要スルニ於テハ今後実物弁償部本会議モ有ルコト故至急訓令ヲ請フ英独ヘ郵報セリ

六四五　十二月十三日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

旧独海底電線評価ノ権限ニ対スル留保見合セ方竝ヤップ三線ニ関スル我方見解ノ件

第一〇〇六号

貴電第一六四五号ニ関シ

(一)旧独海底線評価権ノ所在ニ関シテハ御来示ノ事情モアリ殊ニ賠償委員会ノ権限ヲ認ムル方我ニ有利ナルニ付権限問題ニ関スル留保ヲ見合スコトニ異存ナシ

(二)「ヤップ」三線ノ性質ニ関スル我方ノ見解ハ万一現金吐出ヲ要スル場合ニ我負担額ヲ可成少ナカラシメントスル趣旨ニテ理論トシテ強ク争フノ意ナキニ付貴官ノ裁量ニ依リ適宜措置セラレ差支ナシ将又現金不吐出ニ関シテハ貴官御申越ノ次第モアリ又貴電第一六八八号第二ノ次第モアル処本件ハ御承知ノ通我方ノ極テ重要視シ居ル所ナルニ付此ノ上ナガラ我要求貫徹方ニ付十分御尽力アリタシ

(三)和蘭側利益ノ見積リガ「ヤップ」―「メナド」線ノ価額ヨリ大ナル場合ニ於ケル往電第九四八号(三)末段ノ措置ニ就テハ尚研究ノ余地アルベキモ在蘭公使来電第一二一号ノ如キ事情ニテハ右様ノ場合ハ万々之ナカルヘシト思ハル

(四)附属物件ニ関シテハ目下必要ノ調査ヲナシ且関係官庁ト協議中ナルニ付纏マリ次第直ニ訓令ニ及ブベシ

事項一一　バルセロナ国際交通会議ニ関スル件

六四六　一月十五日　埴原外務次官ヨリ野村満鉄社長外十二名宛(註)

交通総会ニ提出セラルベキ各種提案ニ関スル件

附属書　交通総会ニ関スル概説

条一合送第五三号

本年二月二十一日ヨリ西班牙国「バルセロナ」ニ於テ交通総会開催セラルヘク候処右総会ノ性質等ニ付テハ別紙「交通総会ニ関スル概説」ニ依リ御了承ノ上右別紙附録甲号、乙号、丙号、丁号及戊号ノ通ナル同総会ノ議題トナルヘキ各種提案ニ付何等御意見有之候節ハ至急御回示相成度此段申進候也

註　野村満鉄社長外十二名ノ宛名ハ左ノ通

南満鉄道株式会社社長　野村竜太郎
日本郵船株式会社社長　近藤　廉平
大阪商船株式会社社長　堀　啓次郎
東洋汽船株式会社社長　浅野総一郎
東京商業会議所会頭　藤山　雷太
大阪商業会議所会頭　山岡順太郎
京都商業会議所会頭　浜岡　光哲
名古屋商業会議所会頭　鈴木惣兵衛
横浜商業会議所会頭　大谷嘉兵衛
神戸商業会議所会頭　田村　新吉
長崎商業会議所会頭　橋本辰二郎
門司商業会議所会頭　赤尾　元一
函館商業会議所会頭　岡本　忠蔵

(附属書)

交通総会ニ関スル概説

本年二月二十一日ヨリ西班牙国「バルセロナ」ニ於テ交通総会ノ開催ヲ見ムトス会期ハ約四十日ノ予定ナリ以下本件交通総会開催ノ目的、其ノ議題トナルヘキ各種提案等ニ関シ其ノ概要ヲ記述スヘシ

第一、交通総会開催ノ目的

交通総会ハ客年五月十九日ノ羅馬聯盟理事会ノ決議ニ基キ聯盟各国代表者ニ依リ組織セラルルモノニシテ過般ノ聯盟総会ノ修正ヲ経タル同決議ノ要領左ノ如クニシテ之ニ依リ右開催ノ目的明瞭トナル次第ナリ